

松 山 大 学 論 集  
第 28 卷 第 4 号 抜 刷  
2 0 1 6 年 10 月 発 行

## 前田伍健の新出史料について

富 吉 将 平

# 前田伍健の新出史料について

富 吉 将 平

## 1 は じ め に

前田伍健は、大正末期～昭和 30 年代にかけて愛媛柳壇発展の礎を築いた人物である。伍健は、明治 22（1889）年、香川郡高松（現、香川県高松市）に生まれた。旧制高松中学校（現、香川県立高松高等学校）を経て、坂出の伊予水力電気（現、伊予鉄道株式会社）の支店に入社、やがて本店に転勤となり松山へ移住した。

伍健は、川柳を大正 4（1915）年頃から始め、東京の名人・窪田而笑子の高弟となり、後に全国川柳界の七賢人<sup>1)</sup>となるほどの実力者となった。全国に先駆けて愛媛県川柳文化連盟を結成し、初代会長となった。また、野球拳の創始者としても知られ、伊予鉄道退職後も、自動車学校の教師を務めながら趣味人として生きとし、昭和 35（1960）年、椿まつりに出かけた翌日に倒れ、一週間後に世を去った。

前田伍健の新史料新出の切っ掛けとなったのは、愛媛県生涯学習センター内の愛媛人物博物館のリニューアルである。当該博物館は、これまで 155 名の愛媛ゆかりの偉人を展示してきたが、平成 27（2015）年 4 月 1 日に新たに 23 名の偉人を加えてリニューアルオープンした。この 23 名の中に前田伍健が含まれており、新規展示のための史料調査が行われると共にご遺族が大切に保管してきた 700 点余りの史料が愛媛県（愛媛県生涯学習センター）へ寄贈された。また、調査及び寄贈された史料の一部は、愛媛人物博物館での企画展や常設展で初公開された。当該史料の内容は、全国の柳人から伍健へ宛てられた葉書・

書簡、伍健直筆の墨跡・日記・手記など、愛媛を始め全国の川柳史において大変貴重な史料と成りえるものである。

また、この度の新出史料で最も注目したいのが『戦災画記』である。これは、昭和20(1945)年7月26日の松山大空襲当日から、余土村(現、松山市余戸)へ疎開するまでの約1か月の露天生活を、伍健の自画自筆で記録したものであり、空襲時の詳細な記録、当時の庶民の生活の様子、世相などを一冊にまとめた大変貴重な史料である。本論では、川柳史の概略、前田伍健の略歴等と共にこれら新出史料の概要について述べる。

## 2 川柳史の概略

川柳は、俳句とともに日本の短詩型文学として親しまれてきた定型詩で、俳諧の修練の一つであった前句付が興行化した「前句付万句合」から発展したものである。

江戸時代中期の前句付点者であった柄井川柳(初代川柳)の興行する万句合は、他の選者より面白味のある句を選句することのほか、その投句数に応じて入選句の数を決定する方法や、投句料の安さなどから、他の点者より好評を得ていた。柄井川柳が選んだ当選句は、「暦刷」と呼ばれる印刷物となり、やがて百枚を超え散逸の恐れが生じた。

呉陵軒可有は、初代川柳が選んだ万句合を底本として『俳風柳多留』を編じ、好評を得た。呉陵軒可有の編纂意図は、①前句(題)が無くても句の意図が完結している(付句の独立)、②笑いの類型を導き出し、分類しているという点にあり、これにより《川柳性》とも呼ぶべき17音独立で鑑賞する句の面白さが確立され、『俳風柳多留』により、「川柳風」と呼ばれる概念が生まれ、独立した短詩文芸となる「川柳」の基本的性格付けがなされた。

その後、川柳一派を自認する《川柳風》と称する人々により、川柳風の17音は継承され、これらは、人見川柳(四世川柳)により初めて「俳風狂句」と名付けられた。四世川柳が築いた俳風狂句時代は、川柳を一句立ての文芸とし

て基礎を築いた反面、文芸精神の喪失と内容の空疎化が進んだ点で、功罪相半ばと言われている。さらに五世川柳は、天保の改革による言論統制により、「俳風狂句」を「柳風狂句」と改名して「柳風式法」を制定し、自ら表現内容と選句基準に制約を行った。これにより、川柳は内容を持たない言語遊戯だけのものとなり、この傾向は明治20年代まで続いた。

この傾向に、変化をもたらす契機となったのが、新聞『日本』である。明治21(1888)年に新聞『日本』へ入社した古島一雄は、翌22(1889)年2月11日、大日本帝国憲法発布の日、森有礼文部大臣が暴漢に殺害された事件を題材にした狂句「ゆうれいが無礼のものにしてやられ」「廃刀者出刃包丁を横にさし」に、時事風刺の寸鉄性を見出し、新聞紙面に時事句欄の創設を考え始めた。その後10年以上が経過した明治35(1902)年3月1日、主筆となった古島は、西芳菲山人<sup>2)</sup>と明治30(1897)年に入社した阪井久良伎<sup>3)</sup>を選者として同紙に時事句欄を設けたがなかなか定着しなかった。明治36(1903)年7月3日、同年入社の井上剣花坊<sup>4)</sup>を選者とし、また「新題柳樽」と欄名を改めてより投句欄として定着するようになり、明治新川柳の牙城となった<sup>5)</sup>。

その後、久良伎はこれまでの《狂句》が滑稽・風刺に偏ったことを改め、井上剣花坊と共に初代川柳への回帰を訴えた復古運動(新川柳運動)を興した。新川柳運動以前の川柳を古川柳、以降を新川柳と呼ぶようになり、文芸名としての「川柳」はこの頃より定着した<sup>6)</sup>。

### 3 愛媛の川柳

明治36(1903)年ごろ、阪井久良伎・井上剣花坊が、初代川柳への回帰を訴えた復古運動(新川柳運動)を開始し、後に岡田三面子<sup>7)</sup>・田能村朴念仁<sup>8)</sup>ら加わり、全国各地の新聞社に、川柳欄設置などの協力を要請した。

愛媛県内で久良伎・剣花坊らの要請にすばやく応じたのが海南新聞(現、愛媛新聞)である。明治39(1906)年、当時の海南新聞には川柳愛好家・田中七三郎がいて、編集長であった七三郎により川柳欄が設けられた。選者は初め、

読売新聞の田能村朴念仁を希望したが、多忙のため、朴念仁は窪田而笑子<sup>9)</sup>を推薦してきた。

而笑子は熱心に県内の川柳普及に力を尽くし、海南新聞紙上の川柳欄では、自らが経費を負担して賞を設けて奨励し、一時は俳句を圧倒するほどの隆盛ぶりとなった。海南新聞は、紙上発表のほかに毎月川柳研究会を開き、社内での研究会を足掛かりに、その他の団体も生まれて毎週のように句会が催され、順次県内各地に普及していった<sup>10)</sup>。

## 4 前田伍健と川柳

### (1) 前田伍健の略歴

前田伍健は、大正4(1915)年頃から川柳や俳句の作句を楽しむようになった。大正8(1919)年からは本格的に川柳の作句活動を始め、この年の3月、海南新聞の川柳欄に「人親の今がさびしい歌かるた」など三句が初入選し、五剣(当時の号)の句が初めて活字となった<sup>11)</sup>。大正9(1920)年には窪田而笑子の門人となるが、同時期に酒井大樹、大窪文芳など新鋭の柳人も台頭してきた。これにより、而笑子は柳誌『媛柳』の創刊を決意し、而笑子は自ら筆を執り、終生『媛柳』発行に情熱を燃やしつづけた。県下の柳人もまたこれを支持し、五剣は幹部として師を支え、松山、宇和島、今治での支部の創設に携わった。

大正13(1924)年、五剣は而笑子、白石早柳と交替で海南新聞川柳欄を担当するようになり、中堅作家として新人の育成指導を担うようになった。大正15(1926)年10月、道後鮎屋旅館で秋山好古と会談した際に「質実剛健、進取不倦」の書を貰ったことから「剛健」にちなんで号を「五健」に改めた<sup>12)</sup>。昭和初期頃の五健は、海南新聞川柳欄選者、『媛柳』松山支部長、松山川柳会会長、関西の有力な柳誌『番傘』『川柳雑誌』の客員などを務め、昭和3(1928)年10月に、愛媛柳壇の黎明期を切り開いた而笑子が没すると、その後継として「松山媛柳社」を結成して『一糸集』(而笑子作品集)を出版するとともに

「而笑子忌」を催して師の功績を讃えた。その後、戦前から戦後にかけて五健は、県内各地で創刊される柳誌への寄稿や句会への出席、講演などに奔走した。

昭和 21 (1946) 年 7 月 24 日、山本耕一路が昭和 19 (1944) 年に創刊した柳誌『あゆみ』の 30 号発刊記念「愛媛川柳大会」が開催され、この席で、全国に先駆けて「愛媛県川柳文化連盟」の結成が採択され、翌 22 (1947) 年、五健を会長として同会が発足した。昭和 22 (1947) 年 9 月 7 日、大洲市の「かじか川柳会」が聖臨寺で大会を開催した際、同市の今川棕影が、病を患った五健の衰弱を見て「全川柳人が杖となって支えたい、五健の『五』に人杖を添え『伍健』と改めて頂きたい」と発言したのに対し、『『五健』は秋山将軍から頂戴したものであるが厚情を素直にお受けして人杖を頂きましょう。」と述べ、これ以来号を『伍健』と改めた。伍健は、川柳の指導では師弟関係を持たず柳友として各人の持ち味を活かすということに重きを置き、また、県内各地にあった柳社を平等に扱った。これは各柳誌の主宰とならなかったこととも通じると言える<sup>13)</sup>

県下柳壇の発展に尽くした伍健は、昭和 35 (1960) 年 2 月 5 日に脳溢血で倒れ、その 1 週間後の 2 月 11 日に意識不明のまま 72 歳で亡くなるが、倒れる前日に訪れた椿まつりで詠んだ次の一句が絶句となった<sup>14)</sup>

生きのびて 今年も詣る 椿祭 (2 月 4 日詠む)

## (2) 伍健の川柳に対する信念

伍健の川柳は「真・情・美」を基礎とし、本格派川柳として支持された。伍健は柳誌『川柳伊予』第 7 巻第 1 号 (昭和 16 年) 巻頭に

「真とは 心なり魂なり  
情とは 愛なり敬なり  
美とは 調なり色なり」

との声明を掲げた。「真・情・美」について伍健は「真とは詐らざる，うなずかせる，人生の道である。情は同情的なものを見る，恩愛に結ぶ人倫の根幹である。美は静動二つながらよく見える美と見えざる美を忘るべからず。真ばかりでは理におち，情だけでは低く，美ばかりでは生活無縁で力弱く上すべりするから心すべきだ」と記している。

また伍健は，自作随筆集ともいえる手記（今回の調査で新出した史料，愛媛県生涯学習センター蔵）の中で川柳に対する多くの至言を残しているののでわずかなではあるがその一部を紹介したい。なお，字体，仮名遣いなどについては原文をそのまま引用している。



前田伍健自作随筆集

ノートの表紙に和紙などを張り，自身で題字を書いて作成した自作の随筆集。川柳についての研究した内容，句作の際の心構え，川柳に対する自身の信念などが記されている。

#### ○川柳と共に

- 一，川柳と向き合った。
- 二，川柳が話かけて来た。
- 三，川柳が成程とうなづかせた。
- 四，川柳が私を慰めてくれた。
- 五，川柳と共に歩こうと思った。
- 六，川柳が私に背負はれ。
- 七，川柳の重荷で心が通い始めた。
- 八，川柳が喜怒哀楽を教へた。

九、川柳が私を引張ったり、私が川柳を引張ったりした。

十、川柳が私の杖になり、乗物になり、心の食物となった。

十一、川柳の眞、情、美え私は一生乗るように成った。

十二、川柳を自分だけでなく他へも知らせてやる義務と人生街道の川柳  
憂の樹陰の泉をどうして教へようかと苦心し初めた。

十三、川柳は鏡だ、自分が覗くと向うにも現はれるが去ると消えるに常  
に向きあうべきだ。

#### ○川柳の本質

眞の眞、情の眞、美の眞を尤も平明に表現し誰にでも人間性のあたたかみ、或はきびしさ、又は明暗をうなづかせる短詩形文学が川柳である。

#### ○野の花

川柳は野の花を摘んで来て、そこらにある何彼へ、気軽に、心のまゝ挿したようなもの。むつかしい型もなく、気取もせず、あっさりとさせばよい。俗中に雅あるところを捉らへれば成功である。

※以上、自作随筆集『真情美録』より

#### ○川柳生産

川柳にも生産干係がある。コツ／＼と自己を打ち込む一句一句の作と、古川柳新川柳の鵜のみで焼直し或は出任せの多い量産と－多量生産は経済でも価格は低下する。川柳も又同じ、一句一句検討の句は光る。

#### ○イ、句

川柳の面白さは多くの人が、おかしみだ、ひにくだ、かるいと認めたりほめたりするのできまるのでない。その川柳が「真」か「否や」かできまるものと思う。

#### ○笑い方

おかしみは川柳の一つの要素であるがそれが為め眞、情、美をかく



す事があり、軽々しくなる事がある。おかしみの使用法に注意せねばならぬ。

#### ○川柳人素質

社会を詠する川柳人の素質が低くければ自然創作も低調になる。お互いに磨いて個々を錬成して、お互いがよい心のレンズ、曇らぬとよい心のフィルムを持ちたい。

#### ○一句の中に何かあること

自分の川柳一句が何か対他人、共鳴を与えるもの、苦るしければくるしいように、その中に光明、おかしければおかしい中に調教等、自己のみでなく人間対、社会対の感情に相興する真と情と美とがあって、川柳は生命がある訳である。従ってあと味のわるいもの、暗くする気分の発散はいけない。痛くとも外科手術後の希望とさっぱりした気持をつかむ事が肝要である。

#### ○創作とは

創作とは作者の想像、感情を通じて読者の想像感情を動かし、専門的でなく誰れにでも判る表現で「真」「情」「美」的満足、共鳴を与えるもので同時に精神的明るさ、向上、生甲斐を表しているもので、独創的個性を持つ要素が必要である。川柳も絵も同じ、そして「永遠性」を持つことが肝要である。

#### ○川柳は心の働き

川柳は心の働きであり反省順応による人事の実行であり、川柳が日常生活の中に生きる事が大切である。

#### ○川柳強気

川柳に対しては決して弱気があり卑下してはいけない強く練るこれである。但し強味の為め俗化し高雅過ぎてはいけぬ。川柳は社会と共に在る詩であるから－強さの中に柔軟さ、軽味の中に深さ重さがあるべきである。

## ○川柳道

川柳道はあるか－自由故ない－否な自由とは文学上人間生活干係上故に－道はある－然らばその何れによるべきか－有無の中を行く「真」「情」「美」中に道がある手と手を打って音－この音が川柳である。有の片手、無の片手－相合うところに道はある。

※以上、自作随筆集『柳情画意録』より

## ○冷暖自知

水を飲んで冷暖自知。川柳も読むより作り、作るより読み、さらに作る。こゝに自知の妙境が拓かれて来る。

## ○融合された人格表現

川柳は単に創作のみであつては、いけない。人生観社会観の中に個人の人格が歌われてこそ、創作に価値がある。句の巧拙などは第二である。

## ○川柳感覚の効用

人間感覚の應受性を養ひ共同の安定が他人との共力性を呼び起す。日本人の教育のみでなく教養を低く上に川柳は覚醒剤であり注射液でもある。

## ○平明語の含蓄

平明の言葉に含蓄がある「お母さん」と呼ぶ中に欲求が判る－平明は卑俗でない。

## ○川柳無我

川柳無我＝川柳する時は無我の境に入る我あれば対立となり順が出来来逆が生し勝が生れ負が生ずる。無我にあれば高所から遠山を見る如く川柳が産れる。

## ○すらり―

川柳はすらり―とやる。だら―でもなくぶら―でもない

※以上、自作随筆集『あゆみ語』より

上記は、寄贈手続きに係る史料内容の把握及び平成27年度愛媛人物博物館冬季企画展「前田伍健～野球拳を生んだ愛媛川柳界の巨匠」実施の為に一部を翻刻したものである。これらの内容からは、①川柳を創る柳人の人格や感性を磨くこと、②技巧の巧みさではなく、他人が共感できる句を創れるかということ、③人間社会に寄り添った句を作れるかということの重要性を、伍健が一貫して訴えていることが読み取れる。

## 5 前田伍健の新出史料

### (1) 新出の経緯

前田伍健の新史料新出の切っ掛けとなったのは、愛媛県生涯学習センター（松山市上野町）内の愛媛人物博物館のリニューアルである。

当該博物館は、愛媛県にゆかりの深い偉人の遺品や業績を展示し、来館者に展示人物の生き方を学ぶ機会を提供するとともに、生涯学習風土の醸成を図ることを目的に平成3（1991）年4月に開館した。以来、155名の偉業を9分野で展示・紹介してきたが、①開館後20年以上が経過し、展示人物の追加や新たな展示を検討すべき時期となっている、②今後、愛媛ゆかりの偉人等紹介による「愛媛学」を推進する必要がある、③来館者は、平成21年度の指定管理者制度導入以降、年間1万人を超えているものの、認知度は十分とはいえず、より一層の利用促進を図る必要があるといった状況の変化や課題が生じていたため、これらの課題等に対応するべく常設展示に新たな偉人を追加して展示の充実を図ることとなった。平成25年度に「愛媛人物博物館常設展示への新たな偉人追加事業」を実施して新たに展示する偉人23名を選定し、その翌年度、「愛媛人物博物館常設展示更新事業」を実施して展示室内の一部改修等を行い、平成27（2015）年4月1日にリニューアルオープンした。

今回の展示更新事業で新たに加わった23名の偉人の中に前田伍健が含まれており、新規展示のための史料調査及び収集が行われることとなった。調査は、先ず遺族を探すことから始まったが、松山市内に令嬢及び令孫2名が在住

していることが判り、遺族のご好意により大切に保管されてきた史料の大部分となる 700 点余りが愛媛県（愛媛県生涯学習センター）へ寄贈された。また、調査及び寄贈された史料の一部は、愛媛人物博物館での企画展や常設展で初公開された。

## (2) 寄贈された史料の概要

愛媛人物博物館に寄贈された史料の概要は次のとおりである。なお、本稿末に寄贈された史料の目録を掲載する。

・ 寄贈数 491 件 704 点

・ 内訳

ア 前田伍健に直接関連する史料	465 件	678 点
(ア) 書簡・葉書	287 件	288 点
(イ) 短冊・色紙・軸など（作品）	63 件	167 点
(ウ) 日記・手記・随筆原稿など	63 件	63 点
(エ) 日用品など	25 件	130 点
(オ) 写真類	12 件	13 点
(カ) その他	15 件	17 点
イ 前田伍健関連人物の史料等	26 件	26 点

・ 史料の内容

### (ア) 書簡・葉書

今回の寄贈史料の中で最も点数が多い史料群（288 点）である。全て前田伍健宛に來簡した葉書・書簡であり、発簡の年代は大部分が昭和 20 年～昭和 35 年までである。

差出人を見ると、川柳に関連する人物のものが最も多くて 200 点を超え、麻生路郎、岸本水府、梶本紋太、前田雀郎など全国的に名を馳せた「六巨頭」

と呼ばれた柳人をはじめとする県外各地の柳人や、伍健に師事した県内柳人より来簡している。内容は、以下に2例示すが、互いの近況報告はもちろんであるが、川柳雑誌へ掲載する川柳の選定や寄稿の依頼、川柳大会等への招待及び講演依頼などであり、伍健の柳壇における全国的な幅広い活動の状況を知ることができる。

また、柳原極堂（俳人・新聞記者）、村上霽月（俳人・実業家）、桜井忠温（小説家・軍人）、高橋貞次（刀匠・人間国宝）、景浦稚桃（郷土史研究家）など県内著名人から来簡した書簡類も含まれる。

#### (イ) 短冊・色紙・軸など（作品）

前田伍健が句作した川柳を書した短冊、色紙、掛軸、扁額などのほか、玄人肌であった伍健が描いた絵の短冊や掛軸などである。伍健は幼少期に父・北水から南画を学び、長じてからは手島石泉など県内の日本画家から絵の手解きを受けている。

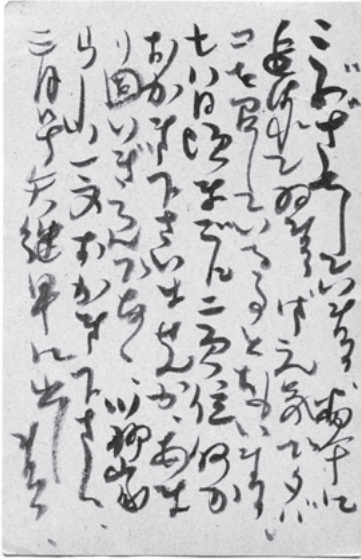
また、柳原極堂や村上霽月、酒井黙禪など、伍健と交流があった俳人が書いた俳句の短冊や屏風に伍健が絵を添えた作品、伍健の川柳の師である窪田而笑子や交流のあった県内外の柳人の短冊、伍健に絵を指導していた手島石泉の短冊などが含まれている。

その他、伍健が逝去した際に詠まれた追悼川柳・短歌の短冊73点も含まれる。

#### (ウ) 日記・手記・随筆原稿など

今回の寄贈申出史料の中で最も特徴的な史料群である。特に手記及び随筆原稿には、前田伍健の川柳に対する姿勢や考え方などが記されており、伍健の文学的研究を行う上で大変貴重な史料と成りえる。

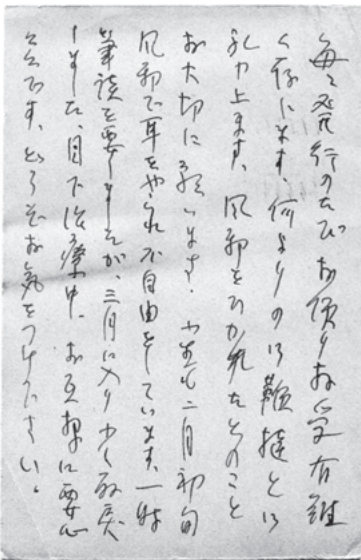
また、句作した川柳をメモ的に書き記した手帳やノート、日々の活動や行事を記した備忘録のような日記も含まれており、伍健の句作活動について知ることができる重要な史料である。



ごぶさたしています。番傘に  
 追はれてゐます。御元気でタバ  
 コを召している事とおもいます  
 七八日頃までに二頁位何か  
 おかき下さいませんか。あま  
 り固いぎろんではなく川柳家  
 らしい一文おかき下さい  
 三月号矢継早に出し  
 ます。

岸本水府葉書 前田伍健宛

昭和 24 (1949) 年 2 月 24 日消印。水府が  
 主宰を務める柳誌『番傘』への投稿依頼。



毎々発行のたび御便り拝受有難  
 く存じます。何よりの御鞭撻と御  
 礼申上げます。風邪をひかれたとのこと  
 御大切に願います。小生も二月初旬  
 風邪で耳をやられ不自由をしています。一時  
 筆談を要しましたが、三月に入り少し取戻  
 しました。目下治療中。お互い様に要心  
 々々です。どうぞお気をつけ下さい。

梶本紋太葉書 前田伍健宛

昭和 33 (1958) 年 3 月 5 日。紋太が主宰  
 を務める柳誌『ふあうすと』発行のたびに手  
 紙を送ってくれることへの感謝など。

(エ) 日用品など

前田伍健のトレードマークともいえる、つばのない野球帽やメガネ、日常使っていた煙管、絵画道具、書道具、落款、手提げ袋などのほか、孫に贈った節句の人形など、伍健の日常生活を窺い知ることが出来る史料である。

(オ) 写真類

ポートレイト、家族との写真及び川柳大会での集合写真など。

(カ) その他

前田家は、高松藩の足輕の家柄で、伍健の父・中平は警察官を務め、居合に優れていた。長男だった伍健は、幼いころから父に居合の稽古をつけられ、後に自身の流派である北辰佐分利流三世宗家を名乗っている。そのような居合道の達人であった伍健が使用した木刀、流派（北辰佐分利流）の技を記した卷子などが含まれている。

**(3) 注目すべき新出史料**

今回の調査で新出となった史料群の中で、筆者が最も注目すべき史料と考えるのが、前田伍健自画自筆の『戦災画記』である。本史料は昭和20（1945）年7月26日の松山大空襲当日から、余土村（現、松山市余戸）の親戚宅へ疎開するまでの約1か月の露天生活を、伍健の自画自筆で記録したものである。

松山大空襲は、昭和20（1945）年7月26日午後11時5分ごろから約2時間半にわたり、アメリカ軍の爆撃機B29約60機によって行われた無差別爆撃である。昭和60（1985）年7月30日付『夕刊えひめ』に掲載された記事で、「紅蓮の炎に包まれ、松山の町が燃える。火の海の中に白亜の天守閣が赤く映え、逃げまどう人びとの頭上に容赦なく火を噴く焼い弾と小型爆弾が雨あられと降って来る」と当時を回顧している。『松山市戦災復興誌』によると、この空襲により松山市の中心部はほとんど灰燼となり、罹災戸数14,300戸（松山市全戸数の55%）、罹災者数62,200人（全人口の53%）、死者251人、行方不明8人に及んだ。

『戦災画記』は約 60 ページ。松山大空襲で自宅が全焼した伍健は、約 1 か月間を自宅跡地（松山市真砂町）で露天生活し、その後、余土村（現、松山市余戸）の親戚宅へ疎開するが、そこで書き始めたものと考えられる。平成 27 年度愛媛人物博物館冬季企画展で初公開となったが、その際は、罹災当時に作られた原本と、終戦後、自宅を再建した直後の昭和 24（1949）年 3 月に、加筆・清書したもの 2 点を展示した。

伍健は、空襲時の様子を松山城を中心に上空を旋回する B29 と炎に包まれる街の絵とともに「…火の雨鉄の雨爆音と金属的轢音全市の空を覆ひ二十七日午前三時頃まで続き続く焦々たる風と紅蓮の火焰一面火の海炎の怒濤にて城山は黒く戦艦の如くこれ又火焰を吐きつゝ薄暗に浮ぶ…」と表現。代表句である「考えを直せばフット出る笑ひ」を詠んだ経緯について、「八月一日、本縣義勇隊本部（県庁内）へ行き、当市及宇和島の焦土に働く人々へ川柳ポスターを描く」としている。昭和 20（1945）年 8 月 6 日の広島原爆投下について、「広島方面に爆煙濛々見ゆ。後で聞けば原子爆弾なり。惨状言語に絶す」と記録し、戦中戦後の市民の生活や市街の様子について、焼夷弾の油が浮く井戸の掃除や、復員兵が続々と帰る様子、戦災者への配給の行列、星条旗が翻る図書館などを描いている。『画記』内には柳人らしく「夢のゆめ笑って暮すことにきめ」「無事祝ふお互いさまのチビ草履」「焼け土と別にうれしい山のいろ」などの川柳が随所にあり、悲壮感にあふれているのではなく、親戚や知人の助けに感謝し、なんとか前に進もうという意思を読み取ることができる。

『戦災画記』は、前田伍健という愛媛川柳界の偉人の自画自筆史料という意味合い以上に、戦災を体験した者の生の記録としても貴重な史料であると考えられる。なお本稿末に全内容を掲載する。

## 6 ま と め

愛媛・松山は、正岡子規の出身地であり、毎年「俳句甲子園」が開催されるなど「俳句の中心地」といったイメージが強いが、川柳についても盛んであり、



全日本川柳連盟に加盟する川柳愛好団体の数は、大阪に次いで全国2位である<sup>15)</sup>。その愛媛川柳界の礎を築いたのが前田伍健であるが、その知名度は高いとは言えない。平成27年度愛媛人物博物館冬季企画展「前田伍健」の開期中、20名程度ではあるが、来場者へ川柳愛好者ではないことを確認した上で「前田伍健という人物を知っていたか？」という質問をしたが、全員が「知らない」もしくは「野球拳を作った人」という程度の認識であった。「前田伍健」展の開催に当たり、(社)全日本川柳連盟常任理事・尾藤一泉氏に御協力頂いたが、そのやり取りの中での一泉氏の「川柳は言葉遊びが目立ち、文芸的側面の追及がおろそかになってきた」の言葉が印象深く、伍健の認知度の低さの一因がここにあるのではないかと考えられる。

川柳は、俳句とともに日本の短詩型文学として親しまれてきた定型詩であるが、伍健は、文芸としての川柳の発展と普及に力を注ぎ、作句はもちろんのこと川柳雑誌等への投稿や川柳大会での講演など精力的に活動してきた。これまで、伍健に関する史料は、書画以外のものは公開されることなく、遺族宅で保管されてきた。また、伍健に関する書籍についても、伍健没後に子息が発刊した句集『野球拳』、伍健自身の随筆集『たぬき日記』など数冊しかなく、その業績が広く顕彰されることはなかった。今回新出となった史料が、伍健の人物像の研究はもとより、大正～昭和初期にかけての愛媛県川柳史の研究の深化に活用されることを期待したい。

## 7 謝 辞

本稿は、平成27年度愛媛人物博物館冬季企画展「前田伍健」の展示内容及び伊予史談会での発表内容を取りまとめて更に大幅に加筆したものであるが、史料目録及び『戦災画記』を印刷紙面にて公表する機会はなかった。今回、その機会を与えて下さった川東埤弘先生に心より感謝申し上げます。

また、史料の翻刻に当たり、伊予高等学校教諭・柚山俊夫先生には添削と確認をして頂いた。また、前田伍健令嬢・木村耀子氏、令孫・木村正樹氏、高橋

道世氏には貴重な史料の提供及びお話を聞かせて頂いた。この場をお借りして感謝申し上げます。

### 注

- 1) 昭和初期～30年代に掛けて、全国柳壇の指導的立場にあった関東の川上三太郎、前田雀郎、村田集魚、関西の岸本水府、麻生路郎、根本紋太の6名を六大家と呼ぶ、愛媛県内ではこれに前田伍健を加えて「川柳七大家」「川柳七賢人」と呼んでいる。
- 2) 安政2年、長崎生まれ。東京帝国大学卒、理学士。工業学校長。教職の傍ら狂歌などをよくし、正岡子規などとも交流があった。明治22年2月11日の大日本帝国憲法発布の日、森有礼文部大臣が暴漢に殺害された事件を題材にした狂句「ゆうれいが無礼のものにしてやられ」「魔刀者出刃包丁を横にさし」を新聞『日本』に投句し、これが後に同紙が川柳欄を開設する契機となり、明治新川柳の牙城となる端緒となった。
- 3) 明治2年、神奈川県生まれ。明治復興期の川柳の指導者。報知新聞社を経て明治30年、新聞「日本」入社、当初は漢詩、短歌などを執筆していたが、明治35年、主筆の古島一雄が短詩型の固定欄を設けたことがきっかけで川柳を専門とするようになった。しかし、新聞紙上では時事句が主流となり文芸的視点とかけ離れることから、翌年退社、『電報新聞』に拠って川柳欄を開設した。同37年、久良伎社を結成、狂句を脱した新川柳にとって最初の組織づくりを果たした。
- 4) 明治3年、山口県生まれ。明治36年に上京し新聞「日本」に入社、そのとき携えた「十銭叢書」に自作の狂句があり、時の主筆・古島一雄に勧められて川柳を研究、同紙に剣花坊の名で「新題柳樟」欄を設ける。明治38年、投句者を組織して「柳樟寺」を設立、機関誌『川柳』を創刊した。この頃、「日本」出身の作家が各地に柳社を創設するが、その先駆者となった。大正に入ると『川柳』を『大正川柳』と改題、月例会を設けて新川柳を説き、自ら中興の偉業に意欲を燃やした。
- 5) 尾藤三柳監修・堺利彦・尾藤一泉編『川柳総合大辞典 1巻人物編』（平成19年8月発刊）86～87頁。
- 6) 「2 川柳史の概略」は、尾藤三柳監修・尾藤一泉著『目で見える－川柳250年』（平成19年9月発刊）12～66頁を参考とした。
- 7) 明治元年、岐阜県生まれ。刑法学者（法学博士）。幼いころ父の影響で川柳に興味を持ち、明治20年ごろ尾崎紅葉の硯友社同人となり、古川柳研究への示唆を受ける。東大教授辞職後、『文芸倶楽部』『東京日日新聞』で狂句の選にあたる。この頃より新川柳グループと接触を持ち、新川柳草創期の理論的指導者の役割を果たす。これと並行して古句研究も行い、川柳評万句合の収集に尽力、この分野でも先駆者となった。昭和に入ってから、ラジオによる川柳普及に貢献した。

- 8) 明治元年生まれ。読売新聞記者。法律新聞編集者。明治37年、読売新聞の「狂句欄」を「新川柳」と改め、翌38年に投句者による読売川柳研究会を設立した。朴念仁が設立した研究会は阪井久良伎主催の久良伎社、井上剣花坊主宰の柳樽寺川柳界に対抗し、明治新川柳三派鼎立時代を作った。作句、選句は写生を重んじ、その上品で軽妙な句は山の手風と呼ばれた。
- 9) 東京小石川区生まれ。明治37年、読売新聞社に入社。明治40年、田能村朴念仁の後を継いで選者となり、読売川柳研究会の普及拡大に尽力した。私財を投じて全国に多数の川柳作家を生み、阪井久良伎主宰「久良伎社」、井上剣花坊主宰「柳樽寺」と明治柳壇を三分した。明治40年、『海南新聞』投句者による海南新聞川柳研究会を松山に結成、晩年の大正10年には自宅に媛柳川柳会を創立し、柳誌『媛柳』を原紙切りから製本、発送まで独力で続けた。
- 10) 「3 愛媛の川柳」は、長野文庫著『愛媛川柳の流れ』（昭和48年9月発刊）21～76頁を参考とした。
- 11) 塩見草映編『前田伍健の川柳と至言』（平成16年2月発刊）2頁
- 12) 「五剣」から「五健」への改号について、長野文庫著『愛媛川柳の流れ』（昭和48年9月発刊）では陸軍中将・白川義則の進言によると記されている。伍健は、昭和2年3月発刊『川柳雑誌』で秋山好古の進言により改号したとアンケートで回答しており、また、松山百店会編『松山百点』第264号（平成16年発刊）内の「ヒーロー列伝伊予人」でも、伍健の子息・欣一氏への聞き取りに拠り同様の内容が記されているので、ここでは秋山好古の進言による改号とした。
- 13) 月刊『川柳マガジン』第2巻3号（平成12年3月発刊）166頁
- 14) 前田伍健の略歴については、『愛媛県史 文学』（昭和59年3月発刊）579～592頁、『愛媛県史 人物』（平成元年2月発刊）556～557頁、愛媛新聞メディアセンター編『発掘えひめ人』（平成12年2月発刊）90～91頁、塩見草映編『前田伍健の川柳と至言』（平成16年2月発刊）、松山百店会編『松山百点』第264号（平成16年発刊）を参考とした。
- 15) 愛媛県企画振興部地域振興局文化・スポーツ振興課管理ホームページ「愛媛の文化活動紹介」

## 資料1 前田伍健親族より愛媛人物博物館へ寄贈された史料目録

番号	人物	標 題	形態	年 月 日	点数	種類	備 考
1	前田伍健	愛用の帽子	帽子	不明	1	実物	
2	前田伍健	落款	印章	不明	41	実物	外箱×1, 落款×39, 朱肉×1
3	前田伍健	前田伍健自宅の表札	表札	不明	1	実物	伍健筆
4	前田伍健	手提げ袋	袋	不明	1	実物	
5	前田伍健	巾着袋	袋	不明	2	実物	
6	前田伍健	万年筆	ペン	不明	2	実物	
7	前田伍健	煙管	煙管	不明	3	実物	
8	前田伍健	矢立	矢立	不明	1	実物	携帯用の筆と墨
9	前田伍健	画材（絵具皿）	画材	不明	11	実物	
10	前田伍健	書道具	書道具	不明	31	実物	筆×8, 筆巻き×2, 硯×6, 文鎮×2, 墨×13
11	前田伍健	前田伍健絵付けの皿	皿	不明	16	実物	皿×7, 湯呑×1, 茶碗×1, 箸置き×2, 徳利×5
12	前田伍健	一日郵便局長の花飾り	飾り	S33. 4. 22	1	実物	写真あり
13	前田伍健	孫の初節句に贈った五月人形・兜	飾り	S34. 5	2	実物	金太郎人形・兜・兜の附属品の3箱
14	前田伍健	笛	楽器	不明	2	実物	袋付き
15	前田伍健	小柄	刀剣	不明	2	実物	伍健使用?
16	前田伍健	刀	刀剣	不明	1	実物	伍健使用? 刀身に“六百四十六” “A & AS” の文字
17	前田伍健	槍（穂先）	刀剣	不明	2	実物	伍健使用?
18	前田伍健	木刀	刀剣	不明	1	実物	刀身に“北辰佐分利流宗家三世 伍□”, 柄に“竹内” の文字
19	前田伍健	木刀	刀剣	不明	1	実物	刀身に“瞬息心気一□ 北辰佐分利流三世” “電光石火存□□ 伍健 □原昌利” の文字
20	前田伍健	感謝状	賞状	S30. 3. 22	1	実物	額入り
21	前田伍健	感謝状	賞状	S34. 4. 1	1	実物	
22	前田伍健	参考新聞きりぬき帳①	綴り	S23秋	1	実物	裏表紙に伍健の自筆「多年 多数の参考きりぬき帳□も二〇. 七. 二六の戦災で焼失 また一よりぼつぼつと始める 昭和二十三年 秋」
23	前田伍健	参考きりぬき帳②	綴り	S30. 12～S33. 4	1	実物	新聞切抜帳
24	前田伍健	参考きりぬき帳③	綴り	S33. 5～	1	実物	新聞切抜帳
25	前田伍健	(参考新聞きりぬき帳) ④	綴り	S34. 6～	1	実物	
26	前田伍健	参考歌謡曲	綴り	不明	1	実物	様々な曲の歌詞の綴り
27	前田伍健	領収書各種	一紙	S24～S34	1	実物	新聞代・電気代・ラジオ受信料・税金など

番号	人物	標 題	形態	年 月 日	点数	種類	備 考
28	前田伍健	NHK 番組「川柳腕くらべ」台本	冊子	S33. 1～S35. 1	1	実物	綴りの最後に「お笑い法廷私はこう裁く」2回分の台本あり。
29	前田伍健	テレビ関係書類	冊子	S33. 12～S35. 2	1	実物	南海放送番組「クローズアップ」台本および番組に関する伍健のメモ。
30	前田伍健	南海 AF 原稿「見たりきいたりためしたり」	綴り	S33. 2～	1	実物	放送内容（伍健自身が話した内容）の原稿
31	前田伍健	松山中央放送局企画援助参考綴り	綴り	S35. 12～	1	実物	松山中央放送局（現、NHK 松山放送局）制作番組「伊予風土記」企画懇談会関係書類及び伍健のメモ。
32	前田伍健	昭和二十年 摘要日記	綴り	S20. 1～S20. 12	1	実物	毎日の主な出来事を記録したもの。
33	前田伍健	昭和二十一年 摘要日記	綴り	S21. 1～S21. 12	1	実物	
34	前田伍健	昭和二十二年 摘要日記	綴り	S22. 1～S22. 12	1	実物	
35	前田伍健	昭和二十三年 摘要日記	綴り	S23. 1～S23. 12	1	実物	
36	前田伍健	昭和二十四年 摘要日記	綴り	S24. 1～S24. 12	1	実物	
37	前田伍健	昭和二十五年 摘要日記	綴り	S25. 1～S25. 12	1	実物	
38	前田伍健	昭和二十六年 摘要日記	綴り	S26. 1～S26. 12	1	実物	
39	前田伍健	昭和二十七年 摘要日記	綴り	S27. 1～S27. 12	1	実物	
40	前田伍健	昭和二十八年 日記	綴り	S28. 1～S28. 12	1	実物	前年までと同様に、毎日の主な出来事を記録したもの。
41	前田伍健	昭和二十九年 日記	綴り	S29. 1～S29. 12	1	実物	
42	前田伍健	昭和三十年 日記	綴り	S30. 1～S30. 12	1	実物	
43	前田伍健	昭和三十一年 日記	綴り	S31. 1～S31. 12	1	実物	
44	前田伍健	昭和三十二年 日記	綴り	S32. 1～S32. 12	1	実物	
45	前田伍健	昭和三十三年 日記	綴り	S33. 1～S33. 12	1	実物	
46	前田伍健	昭和三十四年 日記	綴り	S34. 1～S34. 12	1	実物	
47	前田伍健	昭和三十五年 日記	綴り	S35. 1～S35. 12	1	実物	
48	前田伍健	思ひのまま ざつき帳	綴り	S19. 2. 11～	1	実物	雑記帳。川柳に関するメモ、絵の下書きなど。
49	前田伍健	私の柳説柳話概要	綴り	S22. 5. 16～ S34. 11. 29	1	実物	川柳について各地で講演した内容の概要。
50	前田伍健	川柳雑録帳	綴り	S24. 1. 3～ S35. 1. 19	1	実物	川柳に関する行事・出来事の簡易な記録。
51	前田伍健	(雑記帳)	綴り	(S30)	1	実物	雑記帳。川柳に関するメモ、絵の下書きなど。綴り紐破損。60ページより前は欠損。
52	前田伍健	(手帳)	帳面	S34. 2. 3～	1	実物	川柳が書きとめてある。鉛筆付き。
53	前田伍健	川柳その他なんでも帳	帳面	S31. 5. 12～	1	実物	川柳に関するメモ、絵の下書きなど。全てのページに大きくバツ印が入っている。

## 前田伍健の新出史料について

175

番号	人物	標 題	形態	年 月 日	点数	種類	備 考
54	前田伍健	手ひかえ	帳面	S31. 6. 10～ S32. 10. 8	1	実物	川柳、絵の下書き、自身の句碑に関することのメモ。
55	前田伍健	参考雑書綴	綴り	S34. 9～	1	実物	子規会、かくし芸大会など各種行事などの案内状などを綴ったもの。
56	前田伍健	参考話のたね	綴り	S34. 12～	1	実物	各所で講演などをする際の、話のネタ帳。目次つき。
57	前田伍健	自作随筆集『狸雲録』	ノート	S14. 11. 13～ S29. 8. 8	1	実物	“根本が狸の事故、眉垂にて半信半疑の記録故、ただ我視としてのみ記し置く”
58	前田伍健	雑録『柳思繪想』	帳面	S16. 4. 10～ S16. 5. 3	1	実物	川柳、絵の下書きなどの記録。
59	前田伍健	自作句集『欣晴居句集』	ノート	S17. 3. 21～ S18. 12. 21	1	実物	“之れより以前の句集は二〇年七月二十六日戦災焼失”
60	前田伍健	自作句集『白雲紅日』	ノート	S19. 1. 1～ S22. 7. 29	1	実物	終戦前後の川柳が多数収録。
61	前田伍健	自作随筆集『あゆみ語』	ノート	S19. 1～S21. 1	1	実物	
62	前田伍健	自作随筆集『間光返照記』	ノート	S22. 2～S22. 7	1	実物	“見たまま聞いたまま感じたままを記して参考と為す”“玉石之より混交、後日整理のこと。本帳の外、予の記帳みな同上”
63	前田伍健	自作句集『暁春柳想句集』	ノート	S22. 8～S23. 11	1	実物	
64	前田伍健	自作句集『暁春居晴歩柳句』	ノート	S23. 11～S24. 9	1	実物	
65	前田伍健	自作随筆集『随筆 柳情画意録』	ノート	S23. 8. 15～ S24. 2	1	実物	目録（目次）が別途罫線紙2枚に記入され、挟んである。
66	前田伍健	自作句集『雨春晴好録』	ノート	S24. 9. 22～ S27. 5. 8	1	実物	
67	前田伍健	自作随筆集『真情美録』	ノート	S25. 3. 24～ S27. 2	1	実物	“脱線直線縦横線 我が思うままを記す”
68	前田伍健	自作句集『心おほえ』	ノート	S23～S27. 7. 7	1	実物	川柳、絵の下書き等の記録。
69	前田伍健	自作句集『心おほえ(地之巻)』	ノート	S27. 7. 7～	1	実物	“昭和二七年七月七日以降▽心おほえ－□の巻より続く”
70	前田伍健	自作句集『心おほえ(春の巻)』	ノート	S30. 1～ S32. 11. 12	1	実物	“各誌へ投句、記載されしもの控え”
71	前田伍健	自作句集『心おほえ(黄の巻)』	ノート	S32. 11～S34. 2	1	実物	“各誌へ記載句及自選の例”
72	前田伍健	自作句集『心おほえ(字の巻)』	ノート	S34. 2～	1	実物	“各誌投句せしものを記録し後日整理参考”
73	前田伍健	自作句集『心おほえ(立春録 私の句控)』	ノート	S34. 2～	1	実物	“私の句 この中より推薦又別冊(心おほえ)へ記す”
74	前田伍健	自作随筆集『壬辰筆録(眞・情・美随意筆)』	ノート	S27. 2～	1	実物	“思うまま筆のまま記す”
75	前田伍健	自作句集『五月晴 忙中閑句録』	ノート	S27. 5. 8～ S29. 12. 31	1	実物	
76	前田伍健	自作句集『硬籀集』	ノート	S28. 5. 16～	1	実物	“心おほえより抜筆せしもの”

番号	人物	標 題	形態	年 月 日	点数	種類	備 考
77	前田伍健	自作句集『平明録』	ノート	S30. 1～S31. 5	1	実物	“あとで整理する私の句とにかく記しておく”
78	前田伍健	自作随筆集『狸雲録』	ノート	S30. 2～	1	実物	
79	前田伍健	自作句集『晴風録』	ノート	S31. 6～S32. 5	1	実物	
80	前田伍健	自作随筆集『思うがままの録』	ノート	S31. 11～	1	実物	
81	前田伍健	自作句集『新生録』	ノート	S32. 6～	1	実物	“私の作句記録。この中よりさらに撰りて別冊へ記す”
82	前田伍健	自作随筆集『温故知新記』	ノート	S22. 8. 立秋～ S23. 8. 14	1	実物	“画と川柳と記□と世の中随想”“見聞・感得を一筆に拾ひかきあつめ□に撰るもの。題して温故知新録と云ふ”
83	前田伍健	揮毫心おぼえ	ノート	(S33)	1	実物	揮毫及び描いた絵の内容を書き留めたもの。
84	前田伍健	(雑記帳)	綴り	不明	1	実物	「武道」に関すること、「法と文明」に関すること。その他、各種記録など。
85	前田伍健	(一六本舗包装紙原画：媛達磨)	一紙	不明	1	実物	
86	前田伍健	(一六本舗包装紙原画：六歌仙)	一紙	不明	1	実物	
87	前田伍健	(一六本舗包装紙原画：松山城山)	一紙	不明	1	実物	
88	前田伍健	(一六本舗包装紙原画：たぬき)	一紙	不明	1	実物	
89	前田伍健	写真「伊予鉄道野球部忘年会」	写真	T13. 12	2	実物	
90	前田伍健	写真「前田伍健」	写真	S26. 9	1	実物	狸の木像と写る。
91	前田伍健	写真「前田伍健」	写真	S27. 4. 1	1	実物	徳利を持ち、狸の像と写る。
92	前田伍健	写真「松山□□会集合写真」	写真	S28. 1. 25	1	実物	最前列左から5番目に柳原極堂、同列左から2番目に前田伍健。於護国神社。
93	前田伍健	写真「前田伍健と富田狸通」	写真	S28. 5. 17	1	実物	松山城350年祭協賛他ぬき祭
94	前田伍健	写真「住友化学川柳会」	写真	S29. 5. 30	1	実物	健保館にて
95	前田伍健	写真「前田伍健」	写真	S30. 4. 8	1	実物	右下に“松山 オクダ 唐人”の刻印あり。
96	前田伍健	写真「野球拳に興じる前田伍健」	写真	S30. 10. 15	1	実物	
97	前田伍健	写真「前田伍健」	写真	不明	1	実物	
98	前田伍健	写真「句碑“考えを直せばふっと出る笑い”	写真	不明	1	実物	
99	前田伍健	写真額「前田伍健」	写真	S33	1	実物	昭和33年に撮影された写真6枚を九額に納めている。「1日局長の私」×2枚、S33. 6. 2撮影「私の句碑」、S33. 3. 30撮影「春の川柳大会」、「西日本川柳大会」、「狸の木像と写る前田伍健」
100	前田伍健	写真パネル「ユーモア祭での前田伍健」	写真パネル	S33. 11	1	実物	パネルの裏“34. 8月贈る(増田□史氏写)”
101	前田伍健	前田欣一郎葉書 前田久太郎宛	葉書	S20. 7. 23消印	1	実物	軍務につく長男からの葉書
102	前田伍健	前田欣一葉書 前田久太郎宛	葉書	S20. 8. 6消印	1	実物	軍務につく長男からの葉書

番号	人物	標 題	形態	年 月 日	点数	種類	備 考
103	前田伍健	木村正樹葉書 前田伍健・マ チエ連名宛	葉書	S33. 8. 5 消印	1	実物	長女・羅子の息子（外孫）からの葉書
104	前田伍健	柳原極堂葉書 前田伍健宛	葉書	S22. 9. 8	1	実物	
105	前田伍健	柳原極堂葉書 前田伍健宛	葉書	S22. 9. 13	1	実物	
106	前田伍健	柳原極堂葉書 前田伍健宛	葉書	S23. 11. 7	1	実物	
107	前田伍健	柳原極堂葉書 前田伍健宛	葉書	S23. 11. 27	1	実物	
108	前田伍健	柳原極堂葉書 前田伍健宛	葉書	(S23). 12. 9	1	実物	
109	前田伍健	柳原極堂葉書 前田伍健宛	葉書	(S23). 12. 12	1	実物	
110	前田伍健	柳原極堂葉書 前田伍健宛	葉書	S24. 1. 26	1	実物	
111	前田伍健	柳原極堂葉書 前田伍健宛	葉書	S24. 3. 6	1	実物	
112	前田伍健	柳原極堂葉書 前田伍健宛	葉書	S24. 5. 27	1	実物	
113	前田伍健	柳原極堂葉書 前田伍健宛	葉書	S24. 6. 24	1	実物	子規庵（豊坂町：法龍寺内）へ転居した旨の報告。引越越しをした日に発簡。
114	前田伍健	柳原極堂葉書 前田伍健宛	葉書	S26. 1. 5	1	実物	
115	前田伍健	柳原極堂葉書 前田伍健宛	葉書	S26. 4. 17	1	実物	2枚1組。
116	前田伍健	柳原極堂葉書 前田伍健宛	葉書	S26. 5. 17	1	実物	
117	前田伍健	柳原極堂葉書 前田伍健宛	葉書	S26. 7. 17	1	実物	
118	前田伍健	柳原極堂葉書 前田伍健宛	葉書	S26. 8. 20	1	実物	
119	前田伍健	柳原極堂葉書 前田伍健宛	葉書	S27. 5. 14夜	1	実物	
120	前田伍健	柳原極堂葉書 前田伍健宛	葉書	S28. 1. 1	1	実物	年賀状
121	前田伍健	柳原極堂葉書 前田伍健宛	葉書	S28. 1. 14	1	実物	極堂作の川柳の記載あり。「受賞およろこび痛み入ります“珍宝も役に立たざる老いの春” …」。
122	前田伍健	柳原極堂葉書 前田伍健宛	葉書	S28. 4. 14	1	実物	
123	前田伍健	柳原極堂葉書 前田伍健宛	葉書	S29. 3. 20午前	1	実物	
124	前田伍健	柳原極堂葉書 前田伍健宛	葉書	S30. 1. 1	1	実物	年賀状。俳句あり。「平凡に生きて目出度老の春」
125	前田伍健	柳原極堂葉書 前田伍健宛	葉書	S31. 1. 5	1	実物	年賀状。俳句あり。「九十翁百寿目ざして□□春」
126	前田伍健	柳原極堂葉書 前田伍健宛	葉書	S31. 10. 26午後	1	実物	
127	前田伍健	柳原極堂葉書 前田伍健宛	葉書	S32. 1. 1	1	実物	年賀状。俳句あり。「老いの春晴れがましくも九十一」
128	前田伍健	柳原極堂葉書 前田伍健宛	葉書	S32. 6. 17	1	実物	
129	前田伍健	柳原極堂葉書 前田伍健宛	葉書	S32. 6. 29	1	実物	本文は代筆による。
130	前田伍健	柳原極堂葉書 前田伍健宛	葉書	S□. 1. 4	1	実物	年賀状。昭和25年以降。
131	前田伍健	柳原極堂葉書 前田伍健宛	葉書	S□. □. 16夜	1	実物	内容から推察されて2枚1組の葉書の可能性。当該資料は2枚目の葉書。



番号	人物	標 題	形態	年 月 日	点数	種類	備 考
132	前田伍健	柳原極堂書簡 前田伍健宛	書簡	S22. 12. 25夜	1	実物	
133	前田伍健	柳原極堂書簡 前田伍健宛	書簡	S24. 1. 19正午	1	実物	5枚目に、安倍能成より新しく建つ子規庵用の扁額「我郷子現在」が届いた旨の記述あり。当該扁額は、平成22年度、極堂曾孫より寄贈された。
134	前田伍健	柳原極堂書簡 前田伍健宛	書簡	S30. 11. 25	1	実物	
135	前田伍健	柳原極堂書簡 前田伍健宛	書簡	S□. 12. 7	1	実物	昭和20年 8月～昭和23年12月
136	前田伍健	柳原極堂書簡 前田伍健宛	書簡	S□. 1. 9	1	実物	封筒に「寸志在中」とある。
137	前田伍健	柳原極堂書簡 前田伍健宛	書簡	S□. 3. 6	1	実物	封筒に「自分持参」とある。
138	前田伍健	柳原極堂書簡 前田伍健宛	書簡	S□. 5. 6	1	実物	
139	前田伍健	柳原極堂書簡 前田伍健宛	書簡	S□. 5. 2夕刻	1	実物	封筒内にもう一つ封筒がありその表に「極堂は包中を見ませんが…」とある。伍健への画（揮毫？）の依頼を仲立ちしようである。
140	前田伍健	柳原極堂書簡 前田伍健宛	書簡	S□. 3. 14	1	実物	封筒に「画仙二枚添ふ」「自分持参」
141	前田伍健	柳原極堂書簡 前田伍健宛	書簡	S□. 8. 28	1	実物	封筒表に「画箋残二枚添ふ由一枚ハ狸の画（□賛の余地ある様）拝願仕候」。封筒裏に「自分持参」。
142	前田伍健	柳原極堂書簡 前田伍健宛	書簡	S□. 8. 31	1	実物	
143	前田伍健	柳原極堂書簡 前田伍健宛	書簡	S□. 9. 17	1	実物	
144	前田伍健	柳原極堂書簡 前田伍健宛	書簡	S□. 10. 24	1	実物	
145	前田伍健	柳原極堂書簡 前田伍健宛	書簡	S□. 11. 17	1	実物	
146	前田伍健	柳原極堂書簡 前田伍健宛	書簡	S26. 12. 14	1	実物	封筒に「画箋半折添ふ」とある。本文に「八十六を迎えられそう」とあることから年月日を特定。
147	前田伍健	柳原極堂書簡 前田伍健宛	書簡	S□. 4. 18	1	実物	封筒に「自分持参」とある。
148	前田伍健	柳原極堂書簡 前田伍健宛	書簡	S□. 12. 15	1	実物	封筒に「自分持参」とある。
149	前田伍健	柳原極堂書簡 前田伍健宛	書簡	S26. 12. 22	1	実物	本文に「八十六寿を迎える」とあることから年月日を特定。
150	前田伍健	柳原極堂手紙 前田伍健宛	一紙	不明	1	実物	
151	前田伍健	村上半太郎葉書 前田伍健宛	葉書	(S20). 12. 2	1	実物	
152	前田伍健	村上半太郎書簡 前田伍健宛	書簡	S20. 12. 11消印	1	実物	
153	前田伍健	村上半太郎書簡 前田伍健宛	書簡	(S20). 9. 16	1	実物	伍健のメモ同封「○霽月居士 ○終戦当時の句」
154	前田伍健	村上半太郎書簡 前田伍健宛	書簡	(S20). 9. 21	1	実物	伍健のメモ同封「霽月居士=写□肖像画申越其他」
155	前田伍健	村上半太郎書簡 前田伍健宛	書簡	(S20). 12. 11	1	実物	伍健のメモ同封「○霽月居士 轟屁一発の句」
156	前田伍健	高橋貞次葉書 前田伍健宛	葉書	S29. 2. 8	1	実物	
157	前田伍健	高橋貞次葉書 前田伍健宛	葉書	S29. 4. 5	1	実物	

## 前田伍健の新出史料について

179

番号	人物	標 題	形態	年 月 日	点数	種類	備 考
158	前田伍健	高橋貞次葉書 前田伍健宛	葉書	S30. 1. 1	1	実物	年賀状
159	前田伍健	高橋貞次葉書 前田伍健宛	葉書	S32. 8. 8	1	実物	暑中見舞い
160	前田伍健	高橋貞次葉書 前田伍健宛	書簡	S20. 9. 27	1	実物	終戦後すぐの貞次の心境などが綴ってある。
161	前田伍健	西園寺源透書簡 前田伍健宛	書簡	(S22). 10. 19	1	実物	
162	前田伍健	櫻井忠温葉書 前田伍健宛	葉書	S33. 5. 節句	1	実物	『たぬき日記』を読んだ感想など。
163	前田伍健	櫻井忠温葉書 前田伍健宛	葉書	S33. 5. 17	1	実物	松山の観光パンフレットを送ってくれたことに対するお礼。若い頃、松山で過ごしたことを思い出し目頭が熱くなった。
164	前田伍健	櫻井忠温葉書 前田伍健宛	葉書	S33. 6. 24	1	実物	『たぬき日記』で自分（忠温）を紹介してくれたことに対するお礼。松山からの学生が訪れて、松山の近況を教えてくれたことなど。
165	前田伍健	櫻井忠温葉書 前田伍健宛	葉書	S34. 1. 4	1	実物	年賀状
166	前田伍健	櫻井忠温葉書 前田伍健宛	葉書	S34. 1. 21	1	実物	各種質問や依頼など。
167	前田伍健	櫻井忠温葉書 前田伍健宛	葉書	S34. 1. 28	1	実物	菓子を送ってくれたことへのお礼。
168	前田伍健	櫻井忠温葉書 前田伍健宛	葉書	S34. 5. 30消印	1	実物	松山へ帰る決心をしたことなど。
169	前田伍健	櫻井忠温葉書 前田伍健宛	葉書	S34. 7. 7	1	実物	
170	前田伍健	櫻井忠温葉書 前田伍健宛	葉書	S34. 8. 20	1	実物	
171	前田伍健	櫻井忠温書簡 前田伍健宛	書簡	S33. 5. 11消印	1	実物	
172	前田伍健	櫻井忠温書簡 前田伍健宛	書簡	S34. 1. 17朝	1	実物	
173	前田伍健	櫻井忠温書簡 前田伍健宛	書簡	S34. 1. 22	1	実物	雑用を頼んだことのお詫び、（愛媛）タイムスの記事への批判。
174	前田伍健	櫻井忠温書簡 前田伍健宛	書簡	S34. 6. 24	1	実物	
175	前田伍健	櫻井忠温書簡 前田伍健宛	書簡	S34. 8. 17	1	実物	足が痛くてお礼にうかがえないなど。
176	前田伍健	櫻井忠温書簡 前田伍健宛	書簡	S34. 11. 27夕	1	実物	
177	前田伍健	櫻井忠温書簡 前田伍健宛	書簡	S34. 12. 4消印	1	実物	
178	前田伍健	麻生路郎葉書 前田伍健宛	葉書	S20. 1. 10	1	実物	年賀状。伍健に宛てた郵便が戻ってくるので、次便で住所を知らせてほしいこと。
179	前田伍健	麻生路郎葉書 前田伍健宛	葉書	S20. 7. 8	1	実物	伍健から贈られた句集のお礼。疎開先での近況報告など。
180	前田伍健	麻生路郎葉書 前田伍健宛	葉書	S□. 6. 8夜	1	実物	葉書郵便代金より発送年は S22か S23年。松前名物の魚売女（おたた）についての質問。何と言うのか。今その風俗は残っているか？など。
181	前田伍健	麻生路郎葉書 前田伍健宛	葉書	S□. 6. 14	1	実物	葉書郵便代金より発送年は S22か S23年。「おたた」に関する質問に対する回答へのお礼。
182	前田伍健	麻生路郎葉書 前田伍健宛	葉書	S22. 8. 17	1	実物	

番号	人物	標 題	形態	年 月 日	点数	種類	備 考
183	前田伍健	麻生路郎葉書 前田伍健宛	葉書	S22. 10. 15	1	実物	10月から(川柳雑誌の)ページを増やすので原稿を書いてほしい、(川柳雑誌の)松山、今治支部の世話人の相談など。
184	前田伍健	麻生路郎葉書 前田伍健宛	葉書	S22. 12. 20	1	実物	「川柳雑誌」がぐんぐん充実している。歳末も忙しいことなど。
185	前田伍健	麻生路郎葉書 前田伍健宛	葉書	S24. 9. 7	1	実物	「川柳雑誌」未発送のお詫び。
186	前田伍健	麻生路郎葉書 前田伍健宛	葉書	S24. 11. 19	1	実物	原稿のお礼、「川柳雑誌」の今後について。
187	前田伍健	麻生路郎葉書 前田伍健宛	葉書	S25. 5. 11	1	実物	今治へ誘ってもらったが、多用で断念したこと。
188	前田伍健	麻生路郎葉書 前田伍健宛	葉書	S25. 11. 1	1	実物	雑用が多く閉口。今治、松山、宇和島あたりまで出かけていきたいなど。
189	前田伍健	麻生路郎葉書 前田伍健宛	葉書	S25. 12. 4	1	実物	原稿のお礼、これに例の絶妙な挿絵があればと欲深いことを思う。
190	前田伍健	麻生路郎葉書 前田伍健宛	葉書	S26. 6. 5	1	実物	原稿のお礼など。
191	前田伍健	麻生路郎葉書 前田伍健宛	葉書	S29. 8. 8	1	実物	過労により斃れたこと、最近眼がかすむこと、原稿を送ってほしいことなど。
192	前田伍健	麻生路郎葉書 前田伍健宛	葉書	S30. 1. 14	1	実物	(野球拳について)私は前から伍健君の創始だよと言っていた。あんな事件があったのならよく相談してもらえばよかったのです。…
193	前田伍健	麻生路郎葉書 前田伍健宛	葉書	S31. 2. 5	1	実物	川柳に関するもの、初心者になる話などの原稿を書いてほしいことなど。
194	前田伍健	麻生路郎葉書 前田伍健宛	葉書	S31. 2. 23	1	実物	『たぬき日記』贈呈のお礼
195	前田伍健	麻生路郎葉書 前田伍健宛	葉書	S31. 8. 1 消印	1	実物	弓削支部の不義理について
196	前田伍健	麻生路郎葉書 前田伍健宛	葉書	S31. 11. 12	1	実物	陛下へ川柳献ずの切抜き□□をお送り下さってありがとうございます…
197	前田伍健	麻生路郎葉書 前田伍健宛	葉書	S32. 7. 14消印	1	実物	「川柳雑誌」古希特集号協力への礼状。
198	前田伍健	麻生路郎葉書 前田伍健宛	葉書	S34. 2. 18消印 (午前)	1	実物	川柳雑誌2月号発送遅れのお詫びと、発送が遅れた理由、自身の病状について。
199	前田伍健	川柳雑誌社葉書 前田伍健宛	葉書	S34. 2. 18消印 (午後)	1	実物	麻生路郎の健康への気遣いに対するお礼。雑誌を再送付することなど。1730198と関連。
200	前田伍健	麻生路郎葉書 前田伍健宛	葉書	S□. 7. 27	1	実物	伍健の住所及び葉書郵便代金より発送年はS24かS25年。
201	前田伍健	麻生路郎葉書 前田伍健宛	葉書	S□. 5. 15消印	1	実物	伍健の住所及び葉書郵便代金より発送年はS24かS25年。全国川柳大会協力へのお礼。
202	前田伍健	麻生路郎葉書 前田伍健宛	葉書	S□. 7. 31	1	実物	雑誌を再発送する事、面白い通信をどんどん送ってほしいことなど

番号	人物	標 題	形態	年 月 日	点数	種類	備 考
203	前田伍健	岸本水府葉書 前田伍健宛	葉書	S20. 8. 20消印	1	実物	「けふの日はこゝまでちびたわら草履」 戦災見舞い。狸門復活について。
204	前田伍健	岸本水府葉書 前田伍健宛	葉書	S20. 10. 14	1	実物	
205	前田伍健	岸本水府葉書 前田伍健宛	葉書	S21. 9. 13消印	1	実物	
206	前田伍健	岸本水府葉書 前田伍健宛	葉書	S21. 12. 5 消印	1	実物	
207	前田伍健	番傘川柳社葉書 前田伍健宛	葉書	S23. 7. 1 消印	1	実物	2枚とも消印が同年同日。1枚は寄せ 書きか？
208	前田伍健	岸本水府葉書 前田伍健宛	葉書	S24. 2. 24消印	1	実物	原稿依頼はか。あまり固いざろんでは なく川柳家らしい一文お書き下さい。
209	前田伍健	岸本水府葉書 前田伍健宛	葉書	S24. 3. 4	1	実物	原稿のお礼。
210	前田伍健	岸本水府葉書 前田伍健宛	葉書	S24. 4. 13	1	実物	
211	前田伍健	番傘川柳社葉書 前田伍健宛	葉書	S24. 6. 3	1	実物	
212	前田伍健	番傘川柳社葉書 前田伍健宛	葉書	S24. □. □	1	実物	
213	前田伍健	岸本水府葉書 前田伍健宛	葉書	S25. 5. 12消印	1	実物	雑誌の校正についての相談はか。
214	前田伍健	岸本水府葉書 前田伍健宛	葉書	S25. □. 21	1	実物	川柳相撲？についての感想。
215	前田伍健	岸本水府葉書 前田伍健宛	葉書	S26. 9. 16消印	1	実物	
216	前田伍健	岸本水府葉書 前田伍健宛	葉書	S27. 1. 21	1	実物	
217	前田伍健	岸本水府葉書 前田伍健宛	葉書	S28. □. 4	1	実物	
218	前田伍健	岸本水府葉書 前田伍健宛	葉書	S29. 4. 22	1	実物	
219	前田伍健	岸本水府葉書 前田伍健宛	葉書	S30. 1. 13消印	1	実物	野球拳版權認呈めでたし。川柳家の誇。
220	前田伍健	岸本水府葉書 前田伍健宛	葉書	S30. 6. 11消印	1	実物	野球拳について
221	前田伍健	岸本水府葉書 前田伍健宛	葉書	S30. □. 15消印	1	実物	
222	前田伍健	岸本水府葉書 前田伍健宛	葉書	S31. 2. □消印	1	実物	よい本が出ました。川柳人として気を 吐いて頂き深謝…
223	前田伍健	岸本水府葉書 前田伍健宛	葉書	S31. 8. □消印	1	実物	残暑見舞い
224	前田伍健	岸本水府葉書 前田伍健宛	葉書	S31. 10. 10消印	1	実物	
225	前田伍健	岸本水府葉書 前田伍健宛	葉書	S32. 5. 6 消印	1	実物	原稿のお礼？
226	前田伍健	岸本水府葉書 前田伍健宛	葉書	S32. 5. □消印	1	実物	5. 25？ 元気なお顔と、ご活躍のめざ ましいところを拝しうれしく存じまし た。松山柳界の健在、貴下のおかげと …
227	前田伍健	岸本水府葉書 前田伍健宛	葉書	S32. 6. 26消印	1	実物	伍健の句について、意味の質問があっ たことなど。
228	前田伍健	岸本水府葉書 前田伍健宛	葉書	S32. 11. 7 消印	1	実物	
229	前田伍健	岸本水府葉書 前田伍健宛	葉書	S32. 11. 14消印	1	実物	
230	前田伍健	岸本水府葉書 前田伍健宛	葉書	S32. 12. 18消印	1	実物	お金おまちしています。予算乏しく十 分の事出来ません。あしからず…
231	前田伍健	岸本水府葉書 前田伍健宛	葉書	S32. □. 6 消印	1	実物	

番号	人物	標 題	形態	年 月 日	点数	種類	備 考
232	前田伍健	岸本水府葉書 前田伍健宛	葉書	S33. 2. 13消印	1	実物	水府の自伝に対する感想への御礼など。
233	前田伍健	岸本水府葉書 前田伍健宛	葉書	S33. 9. 23消印	1	実物	弓削でのことについてなど。
234	前田伍健	岸本水府葉書 前田伍健宛	葉書	S34. □. 6 消印	1	実物	寄稿のお礼、自分の道楽のことなど。
235	前田伍健	岸本水府葉書 前田伍健宛	葉書	S35. 1. 10消印	1	実物	年賀状
236	前田伍健	岸本水府葉書 前田伍健宛	葉書	S35. 1. 14消印	1	実物	病気が治ったことなど。
237	前田伍健	岸本水府葉書 前田伍健宛	葉書	不明	1	実物	葉書郵便料代金より発送年は S22か S23。
238	前田伍健	岸本水府書簡 前田伍健宛	書簡	S28. 7. 8 消印	1	実物	風流座公演チラシ
239	前田伍健	岸本水府書簡 前田伍健宛	書簡	S32. 2. 1 消印	1	実物	
240	前田伍健	岸本水府書簡 前田伍健宛	書簡	S32. 6. 11消印	1	実物	中は「行友東風書簡 岸本水府宛」で、伍健の話題があったため転送したものと推察される。
241	前田伍健	岸本水府書簡 前田伍健宛	書簡	S32. 6. 27夕	1	実物	大雨で外に出られず、身辺の整理をしたため絵葉書が出てきた。参考に送付。狸音頭の菓子と作曲が出てきたので、送る…など。
242	前田伍健	中西月龍葉書 前田伍健宛	葉書	S27. 5. 15消印	1	実物	四国若葉大会協力へのお礼。
243	前田伍健	手島石泉葉書 前田伍健宛	葉書	S21. 12. 21消印	1	実物	
244	前田伍健	手島石泉書簡 前田伍健宛	書簡	不明	1	実物	封書郵便代金より発送は S20. 4. 1 ~ S21. 7. 24。石泉の落款の見本？
245	前田伍健	佐々木京林葉書 前田伍健宛	葉書	S19. 8. 24	1	実物	空襲の見舞い、互いに民族百年の興隆のため再起しよう、近々農村慰問展を開くため努力している…
246	前田伍健	佐々木京林葉書 前田伍健宛	葉書	S19. 9. 4	1	実物	(伍健の) 蔵書が残念だったこと、自分も蒐集しているが不親切で、不自由なことなど。
247	前田伍健	佐々木京林葉書 前田伍健宛	葉書	S20. 5. 3	1	実物	10日ほど前から岡崎駅近郊に来てゐる。東京と比べると天国、写生などして過ごしている。しばらく三河で励む。週刊毎日などで明るいお作拝見、懐かしい…。
248	前田伍健	佐々木京林葉書 前田伍健宛	葉書	S20. 11. 9	1	実物	伍健に紙を贈ったこと、東京に行ったこと、東京の様子など。
249	前田伍健	佐々木京林葉書 前田伍健宛	葉書	S20. 11. 26	1	実物	小包を送ったが前の住所で送ったこと。有名人なので大丈夫と思うが返事が欲しいことなど。
250	前田伍健	佐々木京林葉書 前田伍健宛	葉書	不明	1	実物	年賀状。発簡年は、郵便料金より S24 ~ S26。発簡月は年賀状であることから 1月と推察。
251	前田伍健	富士野鞍馬葉書 前田伍健宛	葉書	S25. 3. 21	1	実物	
252	前田伍健	富士野鞍馬葉書 前田伍健宛	葉書	S25. 6. 18	1	実物	昨日、石田□□画伯に会ったこと。伍健の話をしたことなど。
253	前田伍健	富士野鞍馬葉書 前田伍健宛	葉書	S25. 9. 4	1	実物	

前田伍健の新出史料について

183

番号	人物	標 題	形態	年 月 日	点数	種類	備 考
254	前田伍健	富士野鞍馬葉書 前田伍健宛	葉書	S25. 9. 14	1	実物	台風見舞いなど
255	前田伍健	富士野鞍馬葉書 前田伍健宛	葉書	S27. 1. □	1	実物	年賀状
256	前田伍健	富士野鞍馬葉書 前田伍健宛	葉書	S28. 1. 17消印	1	実物	年賀状
257	前田伍健	富士野鞍馬葉書 前田伍健宛	葉書	S□. 6. 8 消印	1	実物	お陰様で当選しました。いろいろご支援ありがたく厚く御礼申し上げます。今度は国会で働いてもらいます…。※郵便料金より、 発簡年は S24～S26。
258	前田伍健	富士野鞍馬書簡 前田伍健宛	書簡	S22. 6. 24	1	実物	詫言状?
259	前田伍健	富士野鞍馬書簡 前田伍健宛	書簡	S25. 5. 24	1	実物	鞍馬が支援する参議院候補者への支援依頼。
260	前田伍健	谷脇素文葉書 前田伍健宛	葉書	S20. 5. 24	1	実物	この地へ逃げてきたことなど、 他。
261	前田伍健	谷脇素文葉書 前田伍健宛	葉書	S20. 5. 31	1	実物	※
262	前田伍健	谷脇素文葉書 前田伍健宛	葉書	S20. 6. 17	1	実物	
263	前田伍健	谷脇素文葉書 前田伍健宛	葉書	S20. 9. 11	1	実物	戦災見舞、 近況報告など。
264	前田伍健	谷脇素文葉書 前田伍健宛	葉書	S20. 10. 19	1	実物	この地に移動したことなど。
265	前田伍健	谷脇素文葉書 前田伍健宛	葉書	S21. 1. 2消印	1	実物	年賀状
266	前田伍健	谷脇素文書簡 前田伍健宛	書簡	S20. 6. 5	1	実物	
267	前田伍健	酒井黙禪葉書 前田伍健宛	葉書	S□. 9. 28	1	実物	
268	前田伍健	安井雅一葉書 前田伍健宛	葉書	S25. 6. 1	1	実物	新築披露会の知らせ
269	前田伍健	安井雅一葉書 前田伍健宛	葉書	S25. 12. 26	1	実物	送られた書類は係へ渡したのでしばらく待つてほしいこと。
270	前田伍健	本田溪花坊葉書 前田伍健宛	葉書	S20. 6. 25	1	実物	去る一日戦火焼失したこと、 一家が今の住所へ避難したこと、 伍健よりもらった「晴窓句集」を読むのを楽しみにしていることなど。
271	前田伍健	本田溪花坊葉書 前田伍健宛	葉書	S20. 7. 16消印	1	実物	都会の知己も離散して淋しいこと、 近頃落着いて読書やスケッチをしていること、 古書の蒐集は難しくあきらめていることなど。
272	前田伍健	本田溪花坊葉書 前田伍健宛	葉書	S20. 8. 20	1	実物	戦災見舞い。鉛筆のおたより誠に悲壮拝見して泣けて来る。お互いに死生境を突破した訳、 然も世相転変何かを申すべき…
273	前田伍健	景浦稚桃葉書 前田伍健宛	葉書	S31. 10. 13	1	実物	
274	前田伍健	景浦稚桃葉書 前田伍健宛	葉書	S34. 2. 11	1	実物	
275	前田伍健	景浦稚桃葉書 前田伍健宛	葉書	S34. 11. 29	1	実物	
276	前田伍健	景浦稚桃書簡 前田伍健宛	書簡	S26. 7. 13	1	実物	
277	前田伍健	景浦稚桃書簡 前田伍健宛	書簡	S34. 7. 6消印	1	実物	
278	前田伍健	景浦稚桃書簡 前田伍健宛	書簡	不明	1	実物	村上霽月について。
279	前田伍健	宮尾しげを葉書 前田伍健宛	葉書	S27. 1. □消印	1	実物	年賀状

番号	人物	標 題	形態	年 月 日	点数	種類	備 考
280	前田伍健	宮尾しげを葉書 前田伍健宛	葉書	S35. 1. 23消印	1	実物	年賀状
281	前田伍健	矢野義晶書簡 前田伍健宛	書簡	S□. 4. 7	1	実物	
282	前田伍健	矢野義晶書簡 前田伍健宛	書簡	S□. 8. 30	1	実物	
283	前田伍健	楳本紋太葉書 前田伍健宛	葉書	S33. 3. 5	1	実物	(ふあうすと) 発行のたびに手紙・写真、有難う。風邪をひかれたとのこと、お大事に、自分も2月初旬の風邪で耳が一時不自由になったが回復した。
284	前田伍健	楳本紋太葉書 前田伍健宛	葉書	S33. 10. 4	1	実物	(伍健の) 句碑、7本目を除幕したとのこと、自分の控えは1本抜けているので、教えてほしい。除幕式の写真を送ってほしい。句碑めぐりをしたい。
285	前田伍健	楳本紋太葉書 前田伍健宛	葉書	S34. 3. 10消印	1	実物	(神戸まで?) 遠路来てくれたことに対するお礼。
286	前田伍健	蛭子省二葉書 前田伍健宛	葉書	S21. 7. 6夜	1	実物	
287	前田伍健	蛭子省二葉書 前田伍健宛	葉書	S21. 7. 22	1	実物	2枚一組。
288	前田伍健	蛭子省二葉書 前田伍健宛	葉書	S21. 8. 10	1	実物	
289	前田伍健	蛭子省二葉書 前田伍健宛	葉書	S21. 11. 28	1	実物	
290	前田伍健	蛭子省二葉書 前田伍健宛	葉書	S22. 1. 6	1	実物	新年のあいさつなど。
291	前田伍健	蛭子省二葉書 前田伍健宛	葉書	S22. 1. 15	1	実物	十五日粥を食べたこと、棕影さんが来たこと、耕一路、迷峰に雑誌を希望したことなど。
292	前田伍健	蛭子省二葉書 前田伍健宛	葉書	S27. 1. 1	1	実物	年賀状
293	前田伍健	蛭子省二葉書 前田伍健宛	葉書	S30. 3. 24夕	1	実物	四月の松山大会(川柳)の出席が、病気のため難しいことなど。
294	前田伍健	蛭子省二葉書 前田伍健宛	葉書	S30. 4. 6	1	実物	春の大会の寄せ書きを送ってくれたことへの感謝など。
295	前田伍健	蛭子省二葉書 前田伍健宛	葉書	S30. 6. 6	1	実物	伊予狸祭りに行きたかったが、病気で行けず、饅頭で満足していること、新居浜の会で紋太と快談されたことがうらやましいなど。
296	前田伍健	蛭子省二葉書 前田伍健宛	葉書	S30. 10. 28	1	実物	病状についてなど。
297	前田伍健	蛭子省二葉書 前田伍健宛	葉書	S31. 1. 3 消印	1	実物	年賀状
298	前田伍健	蛭子省二葉書 前田伍健宛	葉書	S31. 6. 10	1	実物	
299	前田伍健	蛭子省二葉書 前田伍健宛	葉書	S31. 6. 15	1	実物	(伍健筆の) 書画を受け取ったこと、病状など。
300	前田伍健	蛭子省二葉書 前田伍健宛	葉書	S31. 9. 8 朝	1	実物	(伍健の) 孫が誕生したことへのお祝いなど。
301	前田伍健	蛭子省二葉書 前田伍健宛	葉書	S31. 10. 3 朝	1	実物	表に「病日記」とあり、病状を記している。
302	前田伍健	蛭子省二葉書 前田伍健宛	葉書	S□. 3. 8	1	実物	郵便料金より発簡年はS24～S26。『川柳大阪』を受け取ったこと、25日の松山大会には2人でも、3人でも出席するように伝えたことなど。

番号	人物	標 題	形態	年 月 日	点数	種類	備 考
303	前田伍健	伊藤凡々葉書 前田伍健宛	葉書	S34. 12. 31消印	1	実物	原稿を受け取ったこと、(柳誌?)『かたつむり』は初めてで遅れ、校正も失敗した、次回はそうならない様に努めることなど。
304	前田伍健	伊藤凡々葉書 前田伍健宛	葉書	S35. 2. 2 消印	1	実物	原稿を受け取ったこと、忠告有難いこと、会員の結束は固いが、隙を作らないようにすることなど。
305	前田伍健	長野愚佛書簡 前田伍健宛	書簡	S31. 2. 24	1	実物	18日岩国刑務所の講演を終って19日午後離広、20日朝着京、22日朝まで滞京、東京の狸族に広島や松山の旺盛な狸界の状況を伝えて驚かし…。
306	前田伍健	長野愚佛書簡 前田伍健宛	書簡	S31. 3. 6	1	実物	松山へ行った際の歓待に対するお礼。『たぬき通信』第1号同封。
307	前田伍健	富田狸通書簡 前田伍健宛	書簡	S34. 12. 31	1	実物	年末のあいさつ。
308	前田伍健	田中宗坦葉書 前田伍健宛	葉書	S21. 9. 19	1	実物	子規庵再建の式典参加へのお礼など。
309	前田伍健	田中宗坦葉書 前田伍健宛	葉書	S21. 12. 31消印	1	実物	
310	前田伍健	田中宗坦葉書 前田伍健宛	葉書	S22. 1. 3 消印	1	実物	年賀状
311	前田伍健	三浦春風樓葉書 前田伍健宛	葉書	S35. 1. 25消印	1	実物	(春風樓の贈物に対しての) 礼状のお礼。別送下さいました中に先生のお描きになられた画に私の句を入れて下さったのを夢ではないかと見直しました…。
312	前田伍健	三浦春風樓葉書 前田伍健宛	葉書	不明	1	実物	書面の内容より S35. 1. 1～S35. 1. 24までに発簡の葉書と推察。初めて便りを差し上げます…川柳を始めて五年…ねぶたの同人にして頂きました…コンクールでは先生から「※川柳」を推薦していただき…感謝の気持ちで私の作った煎餅をお送りいたします。 ※311と関連。
313	前田伍健	山内松翁葉書 前田伍健宛	葉書	S22. 1. 1	1	実物	
314	前田伍健	山内松翁葉書 前田伍健宛	葉書	S22. 10. 26	1	実物	伍健の病氣(胃病)見舞い?
315	前田伍健	山内松翁葉書 前田伍健宛	葉書	S22. 12. 31消印	1	実物	年賀状。川柳5句。
316	前田伍健	山内松翁葉書 前田伍健宛	葉書	S25. 7. 28消印	1	実物	暑中見舞い
317	前田伍健	中野三允葉書 前田伍健宛	葉書	S23. 12. 13	1	実物	極堂の句幅について、前の焼けた子規堂(いつ建て、いつ焼けたか)の仔細についてなど。※戦災で焼失した子規堂再建の資金繰りに関すること?
318	前田伍健	中野三允葉書 前田伍健宛	葉書	S□. 4. 17	1	実物	郵便料金より発簡は S24～S26。おはがき拝見。乍早速極堂翁の肖像に…
319	前田伍健	中野三允葉書 前田伍健宛	葉書	不明	1	実物	郵便料金及び伍健の住所より S23. 7. 10～S24. 4 頃の発簡と推察。過日照会せし極堂□□会小生も一口□附合致した上、会規承知した
320	前田伍健	徳川夢声葉書 前田伍健宛	葉書	S33. 1. 21消印	1	実物	年賀状
321	前田伍健	徳川夢声葉書 前田伍健宛	葉書	S34. 1. 3 消印	1	実物	年賀状



番号	人物	標 題	形態	年 月 日	点数	種類	備 考
322	前田伍健	徳川夢声葉書 前田伍健宛	葉書	S35. 1. 2 消印	1	実物	年賀状
323	前田伍健	前田雀郎葉書 前田伍健宛	葉書	S25. 3. 27	1	実物	
324	前田伍健	前田雀郎葉書 前田伍健宛	葉書	S25. 4. 19	1	実物	
325	前田伍健	前田雀郎葉書 前田伍健宛	葉書	S31. 5. 1	1	実物	
326	前田伍健	前田雀郎葉書 前田伍健宛	葉書	S31. 6. 25	1	実物	
327	前田伍健	前田雀郎・房川素生葉書 前田伍健宛	葉書	S31. 4. 25消印	1	実物	
328	前田伍健	前田雀郎書簡 前田伍健宛	書簡	S26. 3. 3	1	実物	
329	前田伍健	前田雀郎書簡 前田伍健宛	書簡	S27. 11. 6	1	実物	
330	前田伍健	前田雀郎書簡 前田伍健宛	書簡	S27. 12. 9	1	実物	古川柳の大家の肖像画4枚及びS27. 12. 9消印の雀郎葉書 伍健宛が同封されている。
331	前田伍健	前田雀郎書簡 前田伍健宛	書簡	S□. 4. 12	1	実物	
332	前田伍健	本田溪花坊葉書 前田伍健宛	葉書	S21. 3. 24	1	実物	近況報告。京都の本屋に行くが良本に乏しいこと、自分の文庫も元禄以降から一系統を立てるだけの文献は揃ったことなど。
333	前田伍健	景浦直孝葉書 前田伍健宛	葉書	S35. 1. 20	1	実物	松山市名誉市民(S35. 1. 4)となった直孝への祝詞に対する礼状
334	前田伍健	極堂会事務局書簡 前田伍健宛	書簡	S34. 12. □	1	実物	愚陀仏庵再建募金主意書・極堂会会員名簿
335	前田伍健	松山子規会葉書 前田伍健宛	葉書	S35. 1. □	1	実物	松山子規会第204回新年例会・定期総会案内
336	前田伍健	西山興隆寺書簡 前田伍健宛	書簡	S36. 11. 29消印	1	実物	東予川柳大会結果報告
337	前田伍健	荒井富三葉書 前田伍健宛	葉書	S21. 元旦	1	実物	年賀状
338	前田伍健	細井照道葉書 前田伍健宛	葉書	S21. 3. 22	1	実物	
339	前田伍健	越智二良葉書 前田伍健宛	葉書	S27. □. □消印	1	実物	病氣見舞いへのお礼
340	前田伍健	日本放送協会葉書 前田伍健宛	葉書	S25. 6. □	1	実物	著作者・著作権者名簿の改訂に伴う調査
341	前田伍健	中山博道葉書 前田伍健宛	葉書	S24. 3. 22	1	実物	
342	前田伍健	中山博道葉書 前田伍健宛	葉書	S26. 1. 8 消印	1	実物	年賀状
343	前田伍健	中山博道書簡 前田伍健宛	書簡	S21. 2. 10	2	実物	S21. 3. 10付伍健宛葉書同封。伍健が入れたか？ 伍健の剣及び剣道に対する質問への回答など。例：米国軍の剣道に対する見解は？
344	前田伍健	川柳まつり準備委員会葉書 前田伍健宛	葉書	S31. 3. 16消印	1	実物	S31. 5. 3開催の川柳祭りに来てほしい。みな大張り切りです。
345	前田伍健	山本生葉書 前田伍健宛	葉書	S30. 7. 14	1	実物	暑中見舞い、野球拳について
346	前田伍健	前山北海葉書 前田伍健宛	葉書	S26. 7. 21消印	1	実物	ホノルルへ無事帰着したことなど。
347	前田伍健	森紫苑莊葉書 前田伍健宛	葉書	S31. 2. 24	1	実物	『たぬき日記』寄贈のお礼、読んだ感想など

前田伍健の新出史料について

187

番号	人物	標 題	形態	年 月 日	点数	種類	備 考
348	前田伍健	田中七三郎葉書 前田伍健宛	葉書	S□. 8. 27	1	実物	(七三郎の) 友人が弥次喜多道中記に倣った長野県案内書を見て大いに気に入った。松山だけでも作りたいと思ったが、作れるのは貴見以外ないと思った。観光協会とタイアップしてやってもらえないか…。
349	前田伍健	三條東洋樹葉書 前田伍健宛	葉書	S25. 3. □消印	1	実物	20日放送(川柳)角力を聞いたこと、以前から評判を聞いていたが、大変面白かった。
350	前田伍健	大島壽明葉書 前田伍健宛	葉書	S27. 1. 1	1	実物	年賀状
351	前田伍健	石曾根民郎葉書 前田伍健宛	葉書	S25. 3. 21	1	実物	川柳相撲を聞いた。あなた(伍健)の行事ぶりを皆ほめていた。迷峰さん、素一さんの声が聴けて全く楽しかった…。
352	前田伍健	濱住峯一書簡 前田伍健宛	書簡	S35. 1. 11消印	1	実物	年賀挨拶、南海放送退職の知らせ。
353	前田伍健	高田キヨミ(宗薫)書簡 前田伍健宛	書簡	S35. 2. 2	1	実物	お茶席開催のお知らせ。
354	前田伍健	太田一夫書簡 前田伍健宛	書簡	S35. 1. 14	1	実物	近況報告。生ガキを一樽送ったこと。※名刺が同封
355	前田伍健	山本慧書簡 前田伍健宛	書簡	S35. 1. 11	1	実物	一筆を頂き感謝、早速表装すること、録音も上出来で皆喜んでいることなど。
356	前田伍健	景浦直孝葉書 前田伍健宛	葉書	S□. 4. 10	1	実物	郵便料金より発簡は S22～S23。
357	前田伍健	景浦直孝書簡 前田伍健宛	書簡	S33. 7. 9 消印	1	実物	伍健の質問(論語、植松雅言という人物)に対する回答。
358	前田伍健	□…□葉書 前田伍健宛	葉書	S33. 1. 13	1	実物	見舞いへの礼状。年末から酒を断って快調に向かっていることなど。
359	前田伍健	〈差出人記名なし〉前田伍健宛	葉書	S35. 1. 14	1	実物	…全国的結婚ブームで若娘さんのボラレンの目立つこと…股倉を鼠算用で建て並べ。
360	前田伍健	吉川亜人葉書 前田伍健宛	葉書	S35. 1. 9 消印	1	実物	野球拳伍健節と□ある 亜人 別途小包を送ったので作句帳にでもして下さい。
361	前田伍健	吉川亜人葉書 前田伍健宛	葉書	S35. 1. 13消印	1	実物	時に、あけぼの誌の表紙一枚書いてあげて下さい。題字と共に。あの田舎で(失礼だが)存続発刊は並大抵でないと思ふ…
362	前田伍健	河野□□葉書 前田伍健宛	葉書	S35. □. □消印	1	実物	…下って当方第七月以來□□の病院に入院大手術を受けまして一時は大よろしく喜んで居り…
363	前田伍健	近江砂人葉書 前田伍健宛	葉書	S35. 4. 18	1	実物	錦地訪問の節はわざわざ駅頭まで逢ひに来て下さりありがとうございます。短時間でゆっくりお話しもできず残念でしたが□□お元気そうなお姿を拝見し何よりと存じました。とりあえずお礼を申し上げます。
364	前田伍健	□…□葉書 前田伍健宛	葉書	S32. 3. 23消印	1	実物	毎度「あけぼの」御指導になり有難く…

番号	人物	標 題	形態	年 月 日	点数	種類	備 考
365	前田伍健	山口双□□葉書 前田伍健宛	葉書	S25. 11. 25	1	実物	
366	前田伍健	□川臺諦軒葉書 前田伍健宛	葉書	S32. 10. 25消印	1	実物	松山の発言地はまったく□いものでした。会員の皆様によろしく…
367	前田伍健	岡村嵐舟葉書 前田伍健宛	葉書	S□. 8. 7 消印	1	実物	夏季講座のお供して、水府先生と室戸にきました。海は静かな夕風です。※嵐舟と異なる筆跡による書き込み有り。岸本水府？ 久しぶりの高知に来て世話になっています…。
368	前田伍健	大石□□葉書 前田伍健宛	葉書	S26. 9. 12	1	実物	川柳角力について
369	前田伍健	〈差出人記名なし〉前田伍健宛	葉書	S26. 9. 5 消印	1	実物	寄せ書き。「角力行事の警□大阪に響け」
370	前田伍健	福田山雨樓葉書 前田伍健宛	葉書	S25. 5. 22	1	実物	…“川柳雑誌”の句評を路郎先生から小生幹事で進めてモライタイとのお話があったので久振りに先生の御出馬を…
371	前田伍健	□…□葉書 前田伍健宛	葉書	S26. 7. 9 消印	1	実物	暑中見舞い
372	前田伍健	北村扇□葉書 前田伍健宛	葉書	S27. 1. □	1	実物	年賀状
373	前田伍健	塚越迷亭葉書 前田伍健宛	葉書	S27. 1. 19	1	実物	先日は失礼いたしました。一度お目にかけり度いと思ってをりましたがお目にかかれて幸いでした。いつも川柳のため世話とお骨折りの…
374	前田伍健	塚越迷亭葉書 前田伍健宛	葉書	S31. 5. 15	1	実物	松山を訪問した際の歓待に対するお礼。
375	前田伍健	生野□□葉書 前田伍健宛	葉書	S30. 4. 6	1	実物	野球拳の著作権について、伍健作というのが天下に知れ渡って愉快…。
376	前田伍健	安井山果葉書 前田伍健宛	葉書	S25. 3. 17	1	実物	規則の改正により、県税市税共に全額免除になったので納付の必要がない旨の通知。
377	前田伍健	長野愚佛葉書 前田伍健宛	葉書	S31. 1. 1	1	実物	年賀状
378	前田伍健	矢野翠堂葉書 前田伍健宛	葉書	S32. 1. 1	1	実物	年賀状
379	前田伍健	丸山□□葉書 前田伍健宛	葉書	S□. 8. 7 消印	1	実物	いつも御褒めの御言葉をいただき汗顔の至り。えかきでない物好きがかくもの余り褒められるとづにのってどんな事になりますやら。※河童の絵
380	前田伍健	□…□葉書 前田伍健宛	葉書	S26. 2. 28	1	実物	
381	前田伍健	岡井藤春郎葉書 前田伍健宛	葉書	S22. 9. 2	1	実物	
382	前田伍健	谷口徹□葉書 前田伍健宛	葉書	S□. 7. 17	1	実物	素山？
383	前田伍健	□□□恭葉書 前田伍健宛	葉書	S23. 4. 27	1	実物	
384	前田伍健	胡□人書簡 前田伍健宛	書簡	S27. 7. 1 消印	1	実物	原稿？
385	前田伍健	升田春園書簡 前田伍健宛	書簡	S35. 1. 27	1	実物	…今度は又いい体験をさせて戴きました。色々と勉強になりました。それに再出発を意味しての名前迄頂戴致し…
386	前田伍健	伊藤□□書簡 前田伍健宛	書簡	S35. 1. 8	1	実物	来訪及び大会を盛大に終えることができたことへのお礼など

番号	人物	標 題	形態	年 月 日	点数	種類	備 考
387	前田伍健	芳村□雄書簡 前田伍健宛	書簡	S22. 2. 27	1	実物	
388	前田伍健	石田□□書簡 前田伍健宛	書簡	S25. 4. 5 消印	1	実物	…期間中は何かと御指導の程眷属一同になりかはり御願ひ申し上げます。狸公の御名吟御出来の節は御しらせ下さいませは幸甚に存じます…
389	前田伍健	窪田而笑子短冊「文金の一条乱れぬ三ヶ日 而笑子」	短冊	不明	2	実物	
390	前田伍健	前田伍健短冊「何かしら 希望の春へ 一家無事 伍健」	短冊	皇紀2609年元旦 (S24)	1	実物	
391	前田伍健	前田伍健短冊「世に遠く近く松風またたのし 伍健」	短冊	不明	3	複製	
392	前田伍健	前田伍健短冊「白い手に梶を委せて慈なし 伍健」	短冊	不明	1	実物	伍健の「七福神」の絵が添えられている。
393	前田伍健	前田伍健画短冊「宮本武蔵像」	短冊	壬辰新春 (S27)	1	実物	(極意) □□一空 乾坤をそのまま應と見るときは我は天地の外にこそ住め
394	前田伍健	前田伍健画短冊「梅の花」	短冊	皇紀2609年元旦 (S24)	1	実物	
395	前田伍健	前田伍健短冊「初起し初汲み無事な家の春 伍健」	短冊	壬辰昭和27年壽春	1	実物	
396	前田伍健	前田伍健短冊「少々のあれも芽出度しよい船出 伍健」	短冊	癸巳昭和28年新春	1	実物	(裏面) 皆な元気で雑煮を祝う 元日早朝より強風あれど家門は無事迎春めでたし
397	前田伍健	前田伍健短冊「幸せは三若夫婦みな我が子 伍健」	短冊	甲午新春 (S29)	1	実物	
398	前田伍健	前田伍健短冊「諸派諸流その真上なる子規佛 伍健」	短冊	不明	1	実物	
399	前田伍健	前田伍健短冊「子規まつる心に通う何々ぞ 伍健」	短冊	不明	1	実物	合唱 五十六回忌
400	前田伍健	前田伍健短冊「老いて俸せ子あり妻あり友があり 伍健」	短冊	辛卯昭和26年1月元旦	1	実物	
401	前田伍健	前田伍健短冊「□□□子は成長と今朝の春 伍健」	短冊	戊子昭和23年元旦	1	実物	
402	前田伍健	柳原極堂句・前田伍健画短冊「春風やふね伊豫に寄りて道後の湯 極堂」	短冊	不明	1	実物	画：姫だるま
403	前田伍健	柳原極堂句・前田伍健画短冊「□…□なつの月 極堂」	短冊	不明	1	実物	画：湯呑に蛤
404	前田伍健	柳原極堂句・前田伍健画短冊「□…□ 極堂」	短冊	不明	1	実物	画：梅の花
405	前田伍健	柳原極堂句・前田伍健画短冊「□…□柿のほらや□□□ 極堂」	短冊	不明	1	実物	画：たぬき
406	前田伍健	柳原極堂句・前田伍健画短冊「朝寒やめらめら燃ゆるきびのうら 極堂」	短冊	不明	1	実物	画：雀

番号	人物	標 題	形態	年 月 日	点数	種類	備 考
407	前田伍健	酒井黙禪句・前田伍健画短冊 「□□や二回に亘る□□ 黙禪」	短冊	壬辰新春 (S27)	1	実物	画：小判・蔵・笑顔
408	前田伍健	酒井黙禪句・前田伍健画短冊 「元旦や□□□の宝山 黙禪」	短冊	不明	1	実物	画：鳥（メジロ？）
409	前田伍健	前田伍健句・手島石泉画短冊 「花柳はこゝらの景にふりむ かず 伍健」	短冊	不明	1	実物	画：カワセミ
410	前田伍健	手島石泉画短冊	短冊	(S21)	1	実物	短冊の両面に絵が張り付けてある。 (表) 七輪を前に酒を飲む翁（裏）稲穂に案山子
411	前田伍健	手島石泉画短冊	短冊	(S21)	1	実物	短冊の両面に絵が張り付けてある。 (表) 梨・葡萄・無花果（裏）旅人？
412	前田伍健	手島石泉画短冊	短冊	(S21)	1	実物	短冊の両面に絵が張り付けてある。 (表) 玉蜀黍・柿（裏）僧侶
413	前田伍健	手島石泉画短冊	短冊	(S25)	1	実物	賛：鉄幹生春 画：梅の花
414	前田伍健	中野三允短冊「護国の神常規 □尊輝閑々 三允」	短冊	不明	1	実物	
415	前田伍健	中野三允短冊「極堂翁 □□ の花咲□や□にして康 三允」	短冊	不明	1	実物	
416	前田伍健	中野三允短冊「天主閣から下 界に降り来て暑し 三允」	短冊	S29. 6. 5	1	実物	(裏面) 昭和二十九年六月五日夜伍健 居来訪
417	前田伍健	中野三允短冊「天主閣から下 界に降り来て暑し 三允」	短冊	不明	1	実物	
418	前田伍健	吉川重人短冊「一升をあけると 國の客は去に 重人」	短冊	不明	1	実物	
419	前田伍健	摺本紋太短冊「兩足を動かし 母の背がたのし 紋太」	短冊	S34. 3. 8	1	実物	(裏面) 昭和三十四年三月八日 銀泉 町小公園句碑建設記念
420	前田伍健	岸本水府短冊「旅人へ青貝の 間の灯をともし 水府」	短冊	S12	1	実物	(裏面) 昭和十二年 「番傘」岸本水府
421	前田伍健	岸本水府短冊「□…□より下 の東山 水府」	短冊	不明	1	実物	
422	前田伍健	井上剣花坊短冊「咳一ツきこ えぬ中を天皇旗 漢花坊」	短冊	不明	1	実物	
423	前田伍健	関口文象短冊「時鳥なきやあ 米でもさがるか 文象」	短冊	不明	1	実物	
424	前田伍健	前田伍健と交流のあった柳人の 短冊	短冊	不明	24	実物	
425	前田伍健	前田伍健所蔵の和歌の短冊	短冊	不明	4	実物	高月与右衛門長徳の短冊の裏面：旧吉 田藩高月与右衛門（長徳）豪商にして 風流入
426	前田伍健	前田伍健追悼川柳・和歌短冊	短冊	不明	73	実物	
427	前田伍健	富田狸通画短冊「狸」	短冊	不明	1	実物	

番号	人物	標 題	形態	年 月 日	点数	種類	備 考
428	前田伍健	富田狸通画短冊「河童」	短冊	不明	1	実物	
429	前田伍健	矢野翠堂画短冊「翡翠（かわせみ）」	短冊	不明	1	実物	
430	前田伍健	前田伍健筆・画の短冊箱	木箱	不明	1	実物	
431	前田伍健	前田伍健色紙「□農に手もちぶさたの三ヶ日 伍健」	色紙	癸未新春（S18）	4	複製	
432	前田伍健	映風色紙「百練剛」	色紙	不明	1	実物	
433	前田伍健	映風色紙「四肢□技」	色紙	不明	1	実物	
434	前田伍健	村上霽月句・前田伍健画集「丙子十二月」	折本	丙子（S11）	1	実物	1月から12月まで各月ごとの俳句と絵が描かれている。
435	前田伍健	前田伍健句「ふるさとのよさうれしさもかなしさも 川柳人 伍健」	軸	不明	1	実物	
436	前田伍健	前田伍健句・画「義士本懐」	軸	不明	1	実物	川柳：暇はして笑って雪の陣太鼓
437	前田伍健	前田伍健画・手島石泉賛「大名行列」	軸	昭和21年9月 佳日	1	実物	松平隠岐守行列 九十六叟石泉画伯の 教示に因って
438	前田伍健	前田伍健画・日地筆「御帰城之巻」	卷子	丙子昭和11年 11月22日、 23日、24日	1	実物	本巻は桜三里峠より丹原へ徒歩の一行、三好糸瓜庵、中川花楽、富永市子諸氏と私（筆者）の四人にてその行呈絵巻の巻がこれあり。本巻以外に上、中の巻ある筈に…昭和二十三年十月八日、三好糸瓜庵氏未亡人氏より贈呈する巻中の人は私を除き皆な故人となれる 合掌 昭和二十三年十月九日記 伍健
439	前田伍健	柳原極堂句・前田伍健画「□…□ 八十三翁 極堂」	軸	(S24)	1	実物	画：鹿
440	前田伍健	柳原極堂句・前田伍健画「湯の山の月を吐かんとする気配 九十老人極堂／庭雀□…□ 九十老人極堂」	軸	(S31)	1	実物	画：竹
441	前田伍健	柳原極堂句・前田伍健句・画「近づけば近づいてくる観世音／風の中に□…□ 九十老人極堂」	軸	(S31)	1	実物	画：観音、竹
442	前田伍健	村上霽月句・前田伍健画「□…□ 霽月」	軸	不明	1	実物	画：竹に小鳥（メジロ？）
443	前田伍健	日本刀拓本・前田伍健賛「大山祇神社 国宝 長巻刀」	軸	甲午2月（S29）	1	実物	賛：懐古 五条橋 月天心おさな心のよみかえり（賛を入れたのは丙午昭和29年）※紐破損
444	前田伍健	日本刀拓本・前田伍健賛「大山祇神社 国宝 太刀」	軸	甲午2月（S29）	1	実物	賛：盛衰も栄枯も夢の日本刀（賛を入れたのは丙午昭和29年）
445	前田伍健	谷脇素文画・書簡「達磨」	軸	S20. 11. 26	1	実物	達磨の絵が描かれた色紙と「素文書簡 伍健宛」が軸そうされたもの。裏面に封筒が貼られている。年月日は書簡のもの。

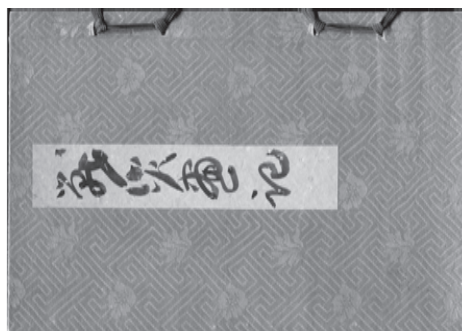
番号	人物	標 題	形態	年 月 日	点数	種類	備 考
446	前田伍健	中山博道書「程々」	軸	不明	1	実物	
447	前田伍健	中山博道書「□…□」	軸	不明	1	実物	
448	前田伍健	中山博道書「□…□」	軸	不明	1	実物	
449	前田伍健	阪井久良伎画・書	軸	丙子昭和11年 2月22日	1	実物	阪井久良伎が作成した写し。
450	前田伍健	釋現龍画「今様大□絵 百鬼夜行」	卷子	不明	1	実物	仮巻
451	前田伍健	前田伍健書額「青風心秋水歌伍健」	扁額	不明	1	実物	
452	前田伍健	村上霽月俳句書・前田伍健画の枕屏風	屏風	(S17)	1	実物	破損（表面の割れ）が激しい。霽月の俳句5句。画は雀。
453	前田伍健	愛用の眼鏡	眼鏡	不明	1	実物	
454	前田伍健	前田伍健筆・画の文箱	木箱	不明	1	実物	伍健の川柳と絵の焼き付け。川柳：故郷よし氏神があり我がある
455	前田伍健	前田伍健画「窪田而笑子翁像」	一紙	S28. 10. 27	1	実物	
456	前田伍健	野球拳川柳	罫線紙	不明	1	実物	伍健と交流のある柳人が詠んだ野球拳を題とした川柳を、伍健が書き留めたもの。
457	前田伍健	歌詞「野球拳おどり」	一紙	不明	1	実物	赤鉛筆で伍健が節のとり方を書き入れている。
458	前田伍健	NHK グラフ 3	一紙	(S25)	1	実物	番組「川柳相撲」のスタジオ風景
459	前田伍健	前田伍健画「父前田北水居士」	めくり	S21. 7. 1. 昭和21年7月 吉日、昭和21年	3	実物	
460	前田伍健	履歴書	罫線紙	不明	1	実物	
461	前田伍健	伊予鉄道社員優待乗車券ほか	切符	S14～S19	6	実物	優待乗車券×5、伊予鉄道産業報国会勤労報国隊隊員証×1
462	前田伍健	大政翼賛会愛媛県支部証明書	一紙	S17. 6. 19	1	実物	
463	前田伍健	父祖代々ところおほえ 居合道 北辰佐分利流	ノート	不明	1	実物	
464	前田伍健	居合道北辰佐分利流・無双英信流 秘巻	卷子	不明	1	実物	
465	前田伍健	北辰佐分利流識	一紙	不明	1	実物	
466	三輪田米山	三輪田米山書・下村為山画軸	軸	不明	1	実物	常貞（米山の本名）が和歌を認めた短冊と、為山が「糸瓜の萌芽」を描いた小色紙を軸そうしたもの。
467	高橋貞次	日本刀拓本「浮雲」	軸	不明	1	実物	「範士中山博道先生愛刀写」貞次が鍛錬した刀を自身が拓本したもの。
468	高橋貞次	日本刀拓本「大般若長光」	軸	不明	1	実物	「大般若長光写 高橋竜王子貞次師より贈らるる（昭和二八、一二、三日）」
469	柳原極堂	柳原極堂短冊「大井川ふね箭の如しまととなす 極堂」	短冊	不明	1	実物	

番号	人物	標 題	形態	年 月 日	点数	種類	備 考
470	柳原極堂	柳原極堂短冊「一つ町に貴□ 川柳の春きそふ 八十三叟 極堂」	短冊	(S24)	1	実物	「伍健庵成りて」
471	柳原極堂	柳原極堂短冊「□…□ 八十二 叟 極堂」	短冊	S23. 4. 3	1	実物	裏面：昭和二十三年四月三日 □□田 野にて□吟
472	柳原極堂	柳原極堂短冊「柿の木に□… □ 極堂」	短冊	不明	1	実物	
473	柳原極堂	柳原極堂短冊「傘さして□… □山桜 八十六翁 極堂」	短冊	S27. 1. 20	1	実物	裏面：昭和二十七年一月二十日道後□ □園にて
474	柳原極堂	柳原極堂短冊「□…□ 極堂」	短冊	不明	1	実物	
475	柳原極堂	写真「柳原極堂」	写真	(S25)	1	実物	
476	村上霽月	村上霽月句・手鳥石泉画「□ …□敗戦に 霽月」	短冊	(S21)	1	実物	画：柿、栗
477	村上霽月	村上霽月句・手鳥石泉画「□ …□ 霽月」	短冊	S21. 1. 12	1	実物	画：松竹梅 裏面：昭和二十一年一月 十二日□ 霽月翁同年二月十五日逝去
478	村上霽月	村上霽月短冊「□…□ 霽月」	短冊	不明	1	実物	
479	村上霽月	村上霽月短冊「□…□ 霽月」	短冊	不明	1	実物	
480	村上霽月	村上霽月短冊「□…□ 霽月」	短冊	不明	1	実物	
481	村上霽月	村上霽月句・手鳥石泉画「□ …□ 霽月」	短冊	S21. 1. 12	1	実物	画：水仙 裏面：昭和二十一年一月十 二日□ 霽月翁同年二月十五日逝去
482	村上霽月	村上霽月句・手鳥石泉画「□ …□ 霽月」	短冊	S21. 1. 12	1	実物	画：あやめ 裏面：昭和二十一年一月 十二日□ 霽月翁同年二月十五日逝去
483	村上霽月	村上霽月句・手鳥石泉画「□ …□ 霽月」	短冊	S21. 1. 12	1	実物	画：牡丹 裏面：昭和二十一年一月十 二日□ 霽月翁同年二月十五日逝去
484	村上霽月	村上霽月句「名月や□…□ 霽月」	軸	不明	1	実物	
485	村上霽月	村上霽月句陶板「□…□ 霽 月」	陶板	不明	1	実物	
486	村上霽月	村上霽月絵付けの杯	杯	不明	1	実物	
487	酒井黙禪	酒井黙禪短冊「□…□ 黙禪」	短冊	不明	1	実物	
488	酒井黙禪	酒井黙禪短冊「□…□湯女酒 黙禪」	短冊	不明	1	実物	
489	酒井黙禪	酒井黙禪短冊「□…□ 黙禪」	短冊	乙未新春 (S30)	1	実物	裏面：乙未新春青□□□ 於 順稚園
490	景浦稚桃	景浦稚桃短冊「春の□…□ 稚桃」	短冊	不明	1	実物	和歌
491	景浦稚桃	景浦稚桃短冊「伊豫土佐を□ …□ 稚桃」	短冊	不明	1	実物	和歌

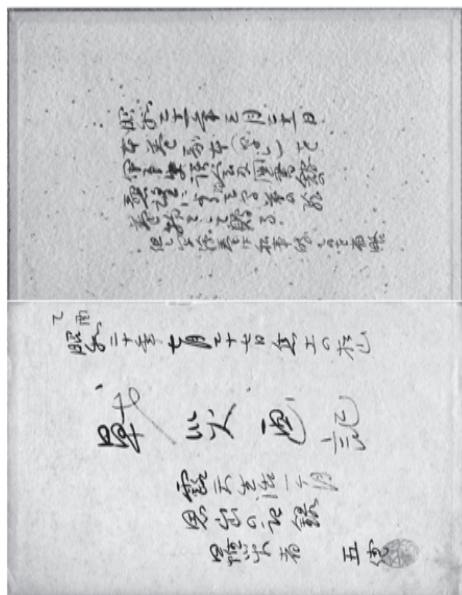
※本史料目録は、寄贈手続きのために作成された目録であり、手続き上差支えない範囲で読み取ることができなかった文字はそのまま「□」となっている。



## 資料2 戦災画記



## 戦災画記



昭和二十一年三月二十一日

本巻副本(写し)を

伊予史談会及図書館の

懇望により約二間半の絵

巻物として贈る

但し写絵巻は私事的ものを省略

乙酉

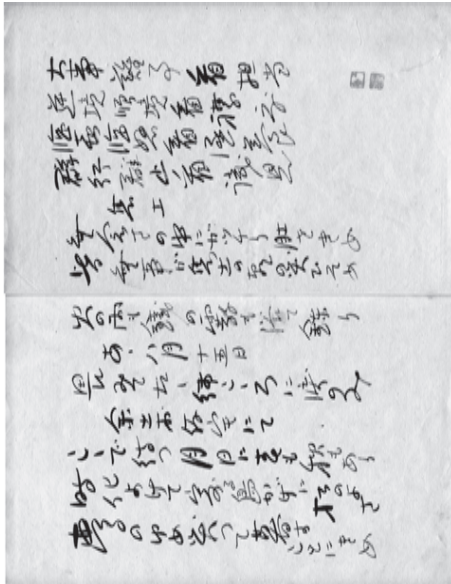
昭和二十年七月二十七日無土の松山

## 戦災画記

露天生活一ヶ月

思出の記録

罹災者 佐健



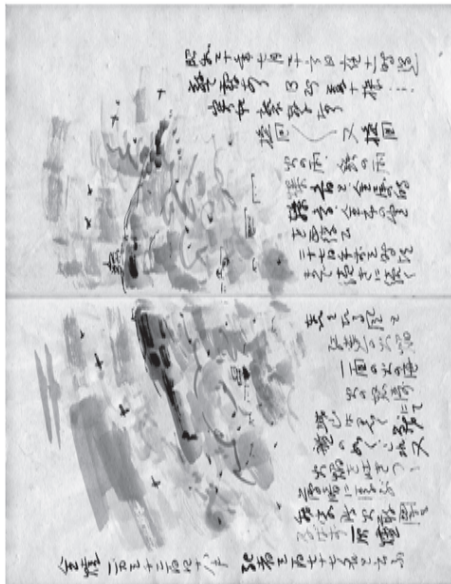
大事難事看担当  
逆境順境看襟度  
隨喜隨怒看極養  
群行群止看識見

焦土

無念さの中にガツチリ肚をきめ  
皆無事が焦土の朝の笑ひそめ

火の雨も鐵の霧も浴て練り  
あゝ八月十五日  
畏みてたゞ御ころに涙のみ  
余土村飯宅にて  
こゝで待つ月日に春も秋もあり  
時化よけて寄る鳥かげに松のよさ  
夢のゆめ笑つて暮す

ことにきめ



昭和二十年七月二十六日夜十一時過  
警報あり B 29 敵十機：

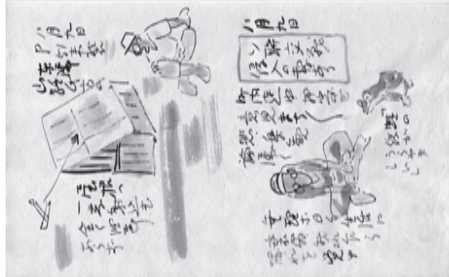
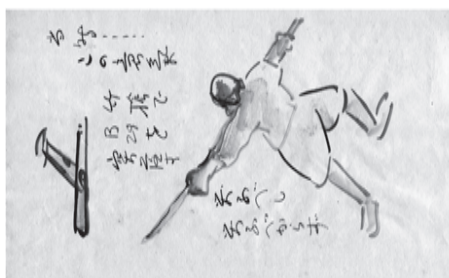
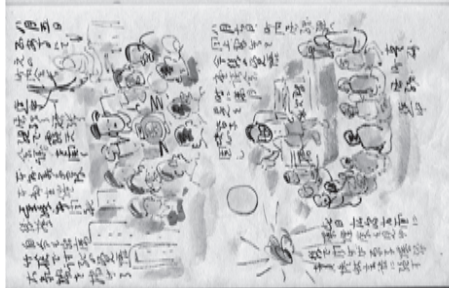
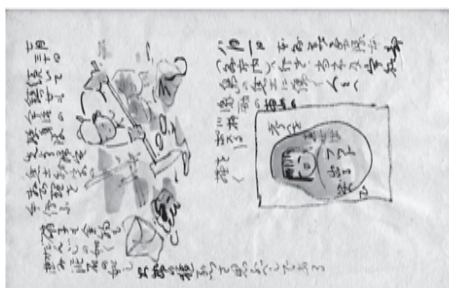
突如襲撃なり  
旋回く又旋回  
火の雨、鉄の雨  
爆音と金屬的  
騒音、全市の空  
を覆ひ  
二十七日午前二時頃  
まで騒ぎに続く

焦々たる風と  
紅蓮の火船と  
一面火の海  
我が総海軍にて

城山は黒く頼り  
經の如くこれ又  
火船を吐まつ  
薄暗に透る  
我家防火筒も  
及ばず破損

全焼一万三千二百四十八戸死者三百七十七名と云ふ





七月  
三十日  
續いて  
類をも  
今迄の  
延慶院  
安より轉宅  
能士親筆の  
新製を  
手書と  
類をも多類も  
だんごの如く  
能く泥の如し  
八月 日 本曜  
(海客使) へ行行  
爲の爲士に續く  
延慶院の爲の  
川能  
来々々  
を  
續く  
考へ  
水鏡の誤刻と題せられてある

[illegible]

当時・・・  
この意気  
竹槍で  
B29を  
突落す

笑ふべし  
笑ふべからず

五月九日  
P. 五八號

貴國  
山縣氏の方

五月九日  
貴父の御あり  
殿は中へ時ぞ  
御置ましく  
是、來罷へ  
謹言へ

「此の  
腹が  
いひなま  
し」

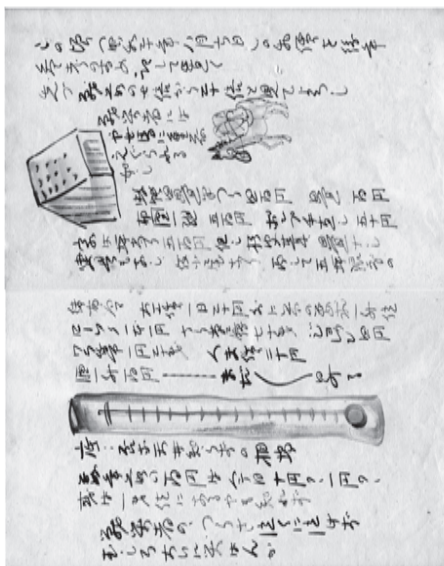
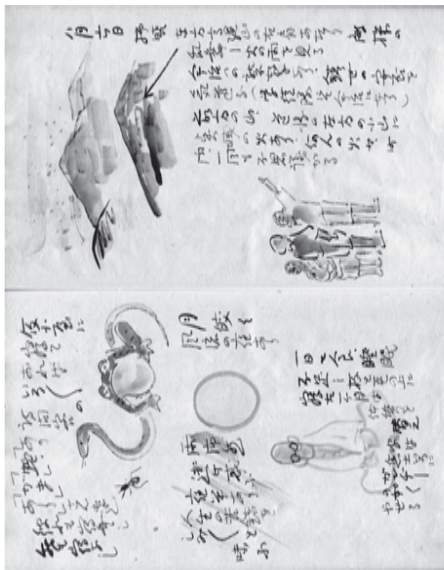
座敷へ  
一茶召込む

全々無難  
なき事

新雨な日々を共に  
享給 我々に  
蘇れを祝ふ







八月六日 弘晩  
東方高麗山の左肩あたり龍潭の  
巨窟一水の淵を見る  
今治への懸崖あり、洞窟の安否を  
見通ふ（寺徒隊にて今治に往り）  
前方の山、道傍の左方の小山に  
点滅の水あり、河の水が町  
内、一同も不思議がる

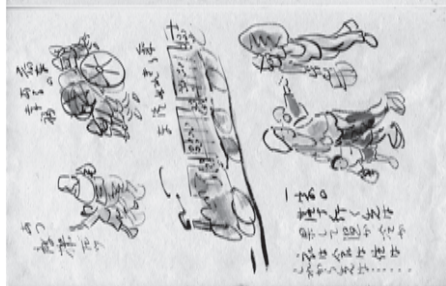
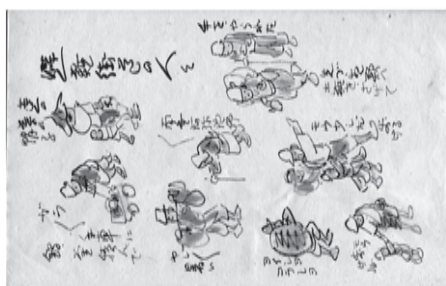
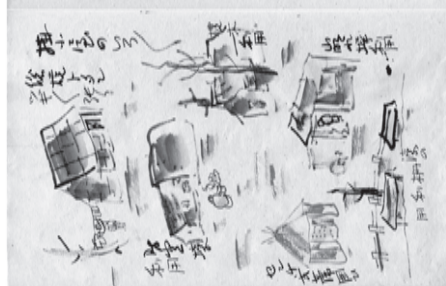
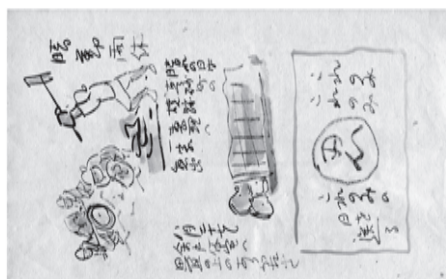
夜ふかし	月夜々
夜ふかし	月夜の夜々々
夜ふかし	
⑤	
夜ふかし	「三」食、酒類
	不食、座より立
	夜ふかし月夜
	体夜々
夜ふかし	夜々
「夜」	夜々
「夜々」	夜々々
「夜々」の夜々	夜々の夜々
夜々々（夜々）	人々の夜々
夜々（夜々）	いざ／＼と
	夜々

この頃（昭和二十年八月六日）の物價を後年  
参考の爲め記して置く  
先ず戦前の七倍から二十倍と見てよろし

親類者には  
 やや賤に類何  
 ぞぐられる  
 如し  
 紋帳四疊半つり 四百円 畳 百円  
 布圍一組 五百円 ぞうり半直し 五十円  
 家は坪当り 五百円 但し杉皮畳 畳ナシ  
 建具もなし 板小屋なり 面して五坪限の

御布令 大工賃一日二十四外に米の要求一升位  
ロノソク一本一円 ちり草履 七十七銭 ジョウレン 四円  
ワラ箒 一円二十銭 人夫賃 二十円  
酒一升 百円 . . . . . まだく昇る

底……否な天井知らずの相場  
数年前の百円は今日十円？ 一円？  
或は一銭位になるかも知れず  
戦災者の、つらさ泣くに泣けず  
むしろ大いに笑はんか



## 晴晴雨休

晴れの日ば  
真砂町の  
繁華へ  
一歩  
踏み出  
す  
八月  
二十七日  
金沢市へ  
草の上のありかた



晴小川のいろく

堤本

堤本  
堤本  
堤本

堤本

堤本

堤本  
堤本

堤本

堤本

避難街道の人々

避難街道の人々

避難街道の人々

避難街道の人々

避難街道の人々

避難街道の人々

避難街道の人々

避難街道の人々

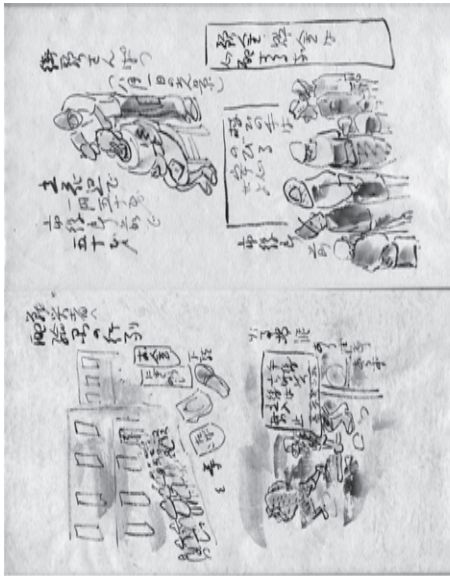
避難街道の人々

避難街道の人々

避難街道の人々

避難街道の人々

避難街道の人々



新金屋  
(八月一日の風景)

新金屋は  
心算するな

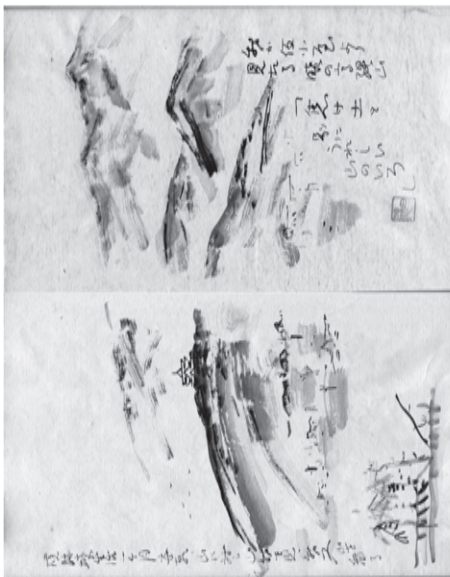
立花町で  
市役所  
五十歳

新金屋の手は  
心算するな

市役所  
前

新金屋へ  
配給品の行列  
お金下  
にあり  
めし  
新金屋  
々

火事警報  
あり消滅  
ならす  
新金屋  
山崎  
新金屋  
山崎  
新金屋  
山崎

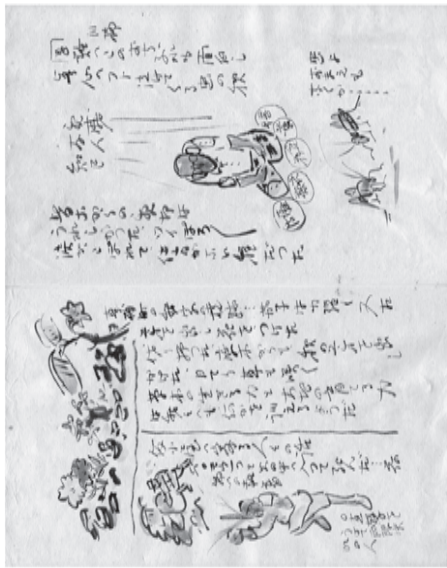


我が飯小屋より  
見たる眺の景観 山  
別には  
うれしい  
山のいろ

新金屋生活 々 月毎朝山見し山我を見 我又山を  
見る







山崎  
顔の構造の図解は  
うれしかった。つばはさく  
顔の構造の図解は  
うれしかった。つばはさく  
顔の構造の図解は  
うれしかった。つばはさく

顔の構造の図解は  
うれしかった。つばはさく  
顔の構造の図解は  
うれしかった。つばはさく  
顔の構造の図解は  
うれしかった。つばはさく

顔の構造の図解は  
うれしかった。つばはさく  
顔の構造の図解は  
うれしかった。つばはさく  
顔の構造の図解は  
うれしかった。つばはさく

顔の構造の図解は  
うれしかった。つばはさく  
顔の構造の図解は  
うれしかった。つばはさく  
顔の構造の図解は  
うれしかった。つばはさく

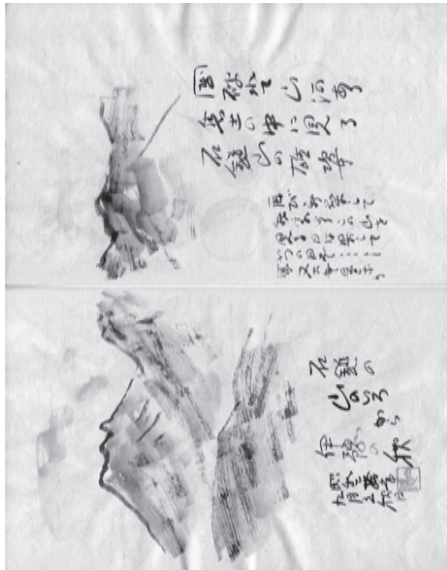
顔の構造の図解は  
うれしかった。つばはさく  
顔の構造の図解は  
うれしかった。つばはさく  
顔の構造の図解は  
うれしかった。つばはさく

顔の構造の図解は  
うれしかった。つばはさく  
顔の構造の図解は  
うれしかった。つばはさく  
顔の構造の図解は  
うれしかった。つばはさく

顔の構造の図解は  
うれしかった。つばはさく  
顔の構造の図解は  
うれしかった。つばはさく  
顔の構造の図解は  
うれしかった。つばはさく

顔の構造の図解は  
うれしかった。つばはさく  
顔の構造の図解は  
うれしかった。つばはさく  
顔の構造の図解は  
うれしかった。つばはさく

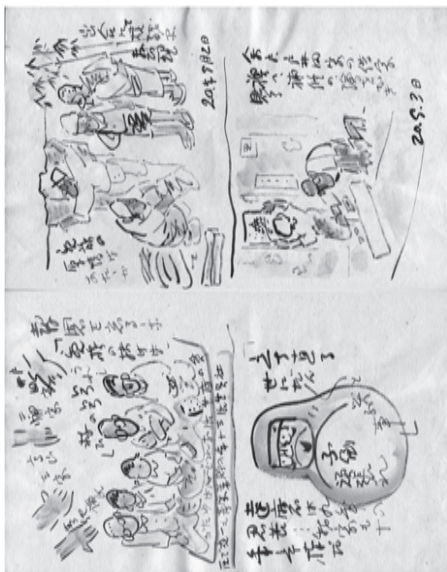




國破れて山河あり  
焦土の中に見る  
石鎚山の雄姿

再び展覧して  
我々よりこの山を  
見る日は来して  
いのちの目ぞ……  
嗚又た重なり

石鎚の  
山のいろ  
から  
伊予の秋  
昭和二年  
九月立秋  
前日



出合にて展覧品  
整理  
20年9月2日

金戸、戸山出合の熊葉  
樹へ樹の葉をかき  
貼る

20年9月3日

熊葉の  
熊葉は  
あまた

三島  
二井田家  
三島

熊葉をさるゝな  
「熊葉の枝はは  
うれし  
教のいろいろ」

かたは心どねなほ生世の良  
版で依一も所家書留の年十三話五日社

「立ち出る  
熊にだんくこ  
事」  
不図  
運運れ  
運運は九年の  
足立・熊葉も十  
足立・熊葉



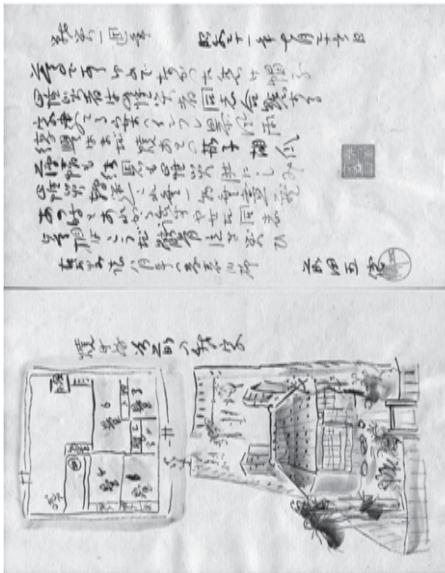


[illegible]

各所へ  
贈送行

その後の世の中  
二十年十月十日  
大風水害襲来

十二月二十二日午時四時半頃  
 南滿洲地方發覺……  
 互衛隊防備  
 多し  
 空襲被害  
 潜水侵入  
 空襲あり  
 現況  
 現況  
 停止  
 停止  
 松山藩の  
 石垣  
 壊れる



昭和二十一年七月二十六日  
 晴 暖 澤 舟  
 夢でありゆめでなかつた傳舟軒子  
 照堂文は照堂文閣主全歸する  
 家道たる奏へんつし風雨  
 仙居はまた佳境との茄子胡瓜  
 落帽も薄陰も羅漢直にしみ  
 照堂文はまた一物無量意縁  
 あの時とあれから語すやとの同志  
 真面目にうそは覺悟さき苦し  
 七も少くまは自白を奏奏川柳  
 前田五

前田五健

## 焼けぬ以前の我家



転禍  
為福

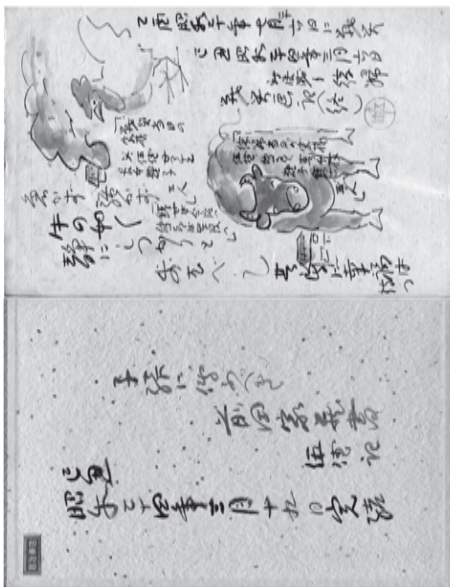
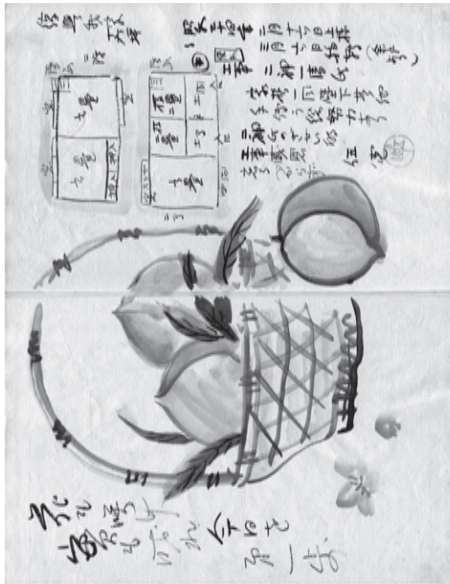
考へを  
直せば  
フット出る  
笑ひ

昭和二十二年慶吉日  
版権写帳より本紙へ通記



昭和二十四年三月  
六日 我家成る  
歳次癸酉年  
より祝賀す  
當時、時、雨子  
海、雲、雨子無く  
全くの雨之、雨  
引の生活城の

我家なり  
たゞ幾日を  
開待して來  
しむ  
のみ  
版小庭も  
我家我家庭  
本の芽なく  
己丑二十四年  
三月十九日 歳之



復興我家  
十六坪

昭和二十四年二月十六日上機  
三月六日自移転(金戸より)  
工事 一沖・瀧氏  
家族 一岡聖下其繼  
手 一から絶努力あり  
一瀧氏のせいのめ  
工事 成恩  
なるべからず 佐健

花も咲け  
實も成れ今日を  
第一歩

乙酉昭和二十年七月六日に戦災  
己丑 昭和二十四年三月六日  
新居成り復興  
戦災画記（終）

「源氏物語」の  
文庫  
父・源朝経・母・玉王  
以て養育す  
三人

「源氏物語」の源朝経  
源朝経・母・玉王  
養育す、三人  
五人

急がず強がらず  
牛の如く  
静にしつかりと  
歩べし 其所に幸福は  
待つ

子孫へ傳ふべき  
前田家藏書  
伍健記  
己丑  
昭和二十四年三月十九日完結



## 資料3 前田伍健 略年譜

	年代		年齢	前田伍健に関する出来事
	和暦	西暦		
明治	22	1889	1	1月5日、父・中平、母・マサの長男として香川県高松市に誕生。本名・久太郎
		30年代		高松中学校（現、香川県立高松高等学校）を経て伊予水力電気坂出支店に入社
大正	3	1914	26	都都逸歌詞募集で入選
	4	1915	27	この頃から俳句や川柳の句作を始める。
	5	1916	28	伊予水力電気と伊予鉄道が合併して伊予鉄道電気となる。
	8	1919	31	3月、窪田而笑子選の海南新聞川柳欄に3句が初入選
	9	1920	32	窪田而笑子の門下となる。
	10	1921	33	窪田而笑子が柳誌『媛柳』創刊。五剣は幹部として而笑子を助ける。
	11	1922	34	柳誌『番傘』の社友となる。
	12	1923	35	海南新聞川柳欄の選者となる。
	13	1924	36	10月、高松で開催された近県実業団野球大会に伊予鉄野球部が参加（五剣は副監督）。その夜の懇親会で「野球拳」が誕生 海南新聞川柳欄を窪田而笑子、白石早柳と交替で担当するようになる。
	15	1926	38	10月、秋山好古の勧めで号を「五健」と改名
	2	1927	39	白石早柳を会長に松山番傘川柳会が発足。創立大会に参加
	3	1928	40	9月、柳誌『媛柳』が廃刊 10月、窪田而笑子逝去。「媛柳」を「松山媛柳吟社」として再発足し会長となる。 松山市真砂町に自宅を新築
	4	1929	41	2月、川柳雑誌社松山支部創立記念大会に出席。来県した麻生路郎と交流を深める。 6月、窪田而笑子遺稿集『川柳一糸集』を発刊
昭和	6	1931	43	4月、東雲神社大祭神前居合術奉納に参加
	9	1934	46	4月、川柳雑誌社今治支部主催の第1回四国川柳大会で「伊予の川柳史に就いて」講演 8月、岸本水府が来県し、今治で句会を開催
	13	1938	50	愛媛毎夕新聞創刊、川柳欄を担当 脳溢血で倒れる。これにより伊予鉄道を退職する。
	14	1939	51	今治の柳誌『川柳すみか』終刊後、愛媛川柳社の柳誌『川柳伊予』と改題。酒井大楼と共に顧問となる。
	16	1941	53	柳誌『川柳伊予』1月号巻頭で「川柳 眞・情・美」声明を発表
	17	1942	54	5月、柳誌『川柳伊予』が『川柳八幡船』と改題。松山市で大政翼賛会文学報国会川柳部会が発足。県支部部長に就任
	18	1943	55	5月、松山市で大政翼賛会川柳部会1周年記念川柳大会を開催。「時局化の川柳人の使命」の題で講演

昭和	20	1945	57	7月26日、松山大空襲により自宅が全焼。余土村（現、松山市余戸）の親せき宅へ疎開
	21	1946	58	7月、昭和19年に創刊した柳誌『あゆみ』の30号発刊記念「愛媛川柳大会」を開催、この席で、「愛媛県川柳文化連盟」の結成が採択される。 10月、『川柳筏』誌創刊大会参加（高知県後免・香美地方）
	22	1947	59	1月、愛媛県川柳文化連盟発足。会長となる。 8月、松山中央放送局（現、NHK 松山放送局）にて15分間の募集川柳を披露 9月、号を「五健」から「伍健」へ改号
	23	1948	60	4月、愛媛県川柳人大会に参加（道後公園） 6月、西日本川柳大会に参加（大分県別府市） 9月、近県川柳大会に参加（新居浜市） 10月、句碑第1号が旧吉海町高龍寺に建立
	24	1949	61	3月、疎開先から元の住所に移る。 5月、松山市義安寺でオール愛媛川柳大会開催 7月、松山中央放送局「放送川柳相撲」第1回放送。行司として活躍
	25	1950	62	4月、愛媛川柳大会に参加（松山市正宗寺） 6月、伍健の進言により「川柳まつやま吟社」創立。柳誌『川柳まつやま』創刊 7月、サヌキ川柳大会に参加（香川県高松自治会館）
	26	1951	63	4月、四国川柳大会に参加（高知県） 5月、蜂の巣川柳会に参加（香川県善通寺市） 9月、新居浜川柳会に参加
	27	1952	64	4月、愛媛川柳大会に参加 9月、近県川柳大会に参加（新居浜市）
	28	1953	65	5月、松山城築城350年祭招待「たぬき祭」を富田狸通と開催 9月、近県川柳大会に参加（新居浜市住友会館）
	29	1954	66	句碑2基が伊予三島市に建立 野球拳が全国的ブームになりレコードが発売される。伍健が著作権者として正式に登録される。 12月、朝日新聞柳壇選者となる。
	30	1955	67	句碑が旧丹原町西山興隆寺に建立 NHK ラジオの「川柳コント、世相遠眼鏡」でパーソナリティーを務め人気になる。 ラジオ南海（現、南海放送）の川柳コーナー選者を務める。
	31	1956	68	4月、愛媛タイムスから『たぬき日記』刊行。第1回四国川柳大会に講師として出席 句碑が旧小松町宝寿寺に建立

昭和	32	1957	69	句碑が大洲市に建立
	33	1958	70	句碑が松山市石手寺に建立 柳誌『川柳まつやま』100号, 「川柳さざなみ吟社」創立10周年記念川柳大会開催
	34	1959	71	柳誌『峠』100号記念として新居浜市滝宮公園に句碑建立
	35	1960	72	2月5日, 脳溢血で倒れる
				2月11日, 逝去。絶句「生きのびて今年も詣でる椿祭」(2月4日詠む)
				2月13日, 松山市萬徳寺で葬儀挙行。法名「伍健院釋晃沢慈照居士」
				3月, 新居浜市一宮神社に句碑建立
				11月, 前田伍健追悼句会を旧丹原町西山興隆寺で開催
	36	1961	/	2月, 第1回伍健忌川柳大会開催
	37	1962	/	伍健の子息・前田欣一編の伍健句集『野球拳』が刊行
				4月, 仲川たけしを会長に愛媛県川柳文化連盟再発足

## 資料4 川柳年表

		和暦	西暦	川柳に関する主な出来事
江	前句付の時代	宝暦7	1757	◆柄井川柳（初代川柳）が万句合興業開始
		明和2	1765	◆『俳風柳多留』初編発刊 これにより《川柳性》とも呼ぶべき17音独立で鑑賞する句の面白さが確立
		寛政2	1790	◆初代川柳逝去
		寛政5	1793	◆初代川柳の万句合常連投句者・桜井庵和笛を選句者として川柳風の万句合復活 ◆寛政の改革の風俗統制により武士批判の句の削除などが行われる。
戸	狂句の時代	文政7	1824	◆人見川柳（4代目川柳）が川柳風17音を「俳風狂句」と名付ける。 4代目川柳が築いた俳風狂句時代は、川柳を一句立ての文芸たらしめる基を築いた反面、文芸精神の喪失と内容の空疎化が進んだ点で、功罪相半ば。
		天保8	1837	◆5代目川柳が号を継ぐ（水谷川柳） 天保の改革による言論統制により、5代目川柳は「俳風狂句」を「柳風狂句」と改名し、「柳風式法」を制定し、自ら表現内容と選句基準に制約を行った。これにより、川柳は内容を持たない言語遊戯だけのものとなった。
		安政5	1858	◆6代目川柳が号を継ぐ（水谷川柳） 6代目川柳は「柳風会」を設立して組織化した。「柳風式法」を金科玉条のように扱い、明治に入ると「柳風點式」と一部改め、継承された。
		明治20年代		◆新聞『日本』の、後に主筆となる古島一雄が同紙に川柳欄を設け、明治新川柳復興の契機となる。
明	治	明治35	1902	◆このころ、阪井久良伎・井上剣花坊らが、初代川柳への回帰を訴えた復古運動（新川柳運動）を開始 明治30年代後半の川柳近代化とそれに尽くした先覚者を「川柳中興」と称す。一般に、初めて新結社を創り、句会・機関誌の道を開いた阪井久良伎と新聞に川柳欄を定着させ多くの新作家を輩出した井上剣花坊を指す。この両者に、その功績から田能村朴念仁、岡田三面子も中興に加わる。
		明治40年代初頭		◆新傾向川柳 川柳本来の客観的視点から離れて、作者の個性を表現しようとする新しい領域を開き、川柳近代化への先駆となった。
				◆新興川柳 大正末期から昭和10年前後にかけて興った川柳の革新運動
		大正末期		◆六巨頭時代 昭和前期から昭和30年代にかけて、東京の川上三太郎、前田雀郎、村田周魚、大阪の岸本水府、麻生路郎、神戸の樺本紋太の六人を六巨頭と呼び、これら指導者の影響下にあった時代を六巨頭時代と呼ぶ。
大	正	昭和10年前後		◆翼賛川柳の蔓延 昭和10年代に入ると、言論統制が強化され、特高警察による弾圧も強まった。風刺を一つの特徴とする川柳は失われ、次第に戦争に協力的な立場の「翼賛川柳」が広がる。
		昭和10年代		◆柳社、機関誌の復刊、新刊の出版が70種に及ぶ。
		昭和22	1947	◆女流作家の著しい進出
		昭和30年代		◆革新系の柳社による現代川柳作家聯盟が発足
		昭和32	1957	◆イギリスの文学者・詩人で大学教授のブライスが英文『SENRYU』を発刊
		昭和37	1962	◆六巨頭が相次いで逝去
		昭和49	1974	◆日本川柳協会発足
		昭和52	1977	◆第1回全日本川柳大会を開催
		昭和61	1986	◆第1回国民文化祭文芸大会 短歌、俳句と並ぶ文芸として川柳が国民文化祭に参加
		昭和62	1987	◆第一生命が公募の「サラリーマン川柳」が始まる。 企業などが主催の公募川柳が隆盛を迎える。
和	川柳の時代			

平成	平成16	2004	◆川柳学会創立
	平成19	2007	◆川柳発祥250周年
	平成27	2015	◆『俳風柳多留』初編発刊250周年

※上記年表は、尾藤三柳監修・尾藤一泉著『目で見る－川柳 250 年』（平成 19 年 9 月発刊）12～66 頁を参考として作成し、愛媛人物博物館平成 27 年度冬季企画展「前田伍健～野球拳を生んだ愛媛川柳界の巨匠」の展示解説パネルとして使用したもの。